

平成26年8月20日の豪雨災害

広島市・区社会福祉協議会 活動報告書



目次

ごあいさつ

- ・社会福祉法人広島市社会福祉協議会 会長 山本 一隆 02

第1章 広島市豪雨災害発生経過

- ・豪雨災害発生経過 04
- ・被害状況 05
- ・救援活動 11
- ・避難状況 12

第2章 被災者支援活動経過

- ・広島市社会福祉協議会の動き 14
- ・災害ボランティア本部の開設 18
- ・区災害ボランティアセンターの開設 19
- ・災害ボランティア本部及び区災害ボランティアセンターの経過 23
- ・復興連携本部及び区復興連携センターへの移行 26
- ・復興連携本部及び区復興連携センターの経過 27
- ・ボランティア活動の状況 29
- ・関係機関等からの協力 32

第3章 広島市災害ボランティア本部の取り組み

- ・災害ボランティア本部の役割 34
- ・情報発信について 36
- ・被災地での他団体の活動 36

第4章 安佐南区における被災者支援活動

- ・地域の特徴 38
- ・安佐南区の被害状況とボランティア活動拠点 39
- ・安佐南区災害ボランティアセンターの活動 40
- ・安佐南区復興連携センターの取り組み 42

第5章 安佐北区における被災者支援活動

- ・地域の特徴 46
- ・安佐北区の被害状況とボランティア活動拠点 47
- ・安佐北区災害ボランティアセンターの活動 48
- ・安佐北区復興連携センターの取り組み 50

第6章 広島市豪雨災害での活動をふりかえって

- ・安佐南区での支援に携わった皆様からの声 54
- ・安佐北区での支援に携わった皆様からの声 56
- ・支援者として 58

第7章 被災者支援活動への対応から見た課題と今後の取り組み

- ・災害ボランティアによる被災者支援活動に関する課題と今後の取り組み 60

第8章 資料

- ・その後 64
- ・関係図（各関係機関との関わり） 66
- ・広島県内の過去の災害の記録 67
- ・関連記事（新聞） 68

あとがき

- 70

ごあいさつ

平成26年(2014年)8月19日からの大雨で、20日の未明に安佐南区及び安佐北区内において多数発生した土石流により、死者76名(関連死2名)、負傷者68名、被災世帯は5千世帯にもおよぶという甚大な被害を受けました。

ここに改めて亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様から心からお見舞い申し上げます。

また、発災以降、災害ボランティアセンターの運営にあたって、スタッフの派遣、寄附金及び支援金並びに支援物資の提供、そして多くの温かい励ましのお言葉など、全国から多大なるご支援をいただいたことに対し心から感謝申し上げます。

本会は、被災された方が一日も早く日常の生活に戻れるよう、広島市災害ボランティア本部並びに安佐南区災害ボランティアセンター及び安佐北区災害ボランティアセンターを設置し、住環境の復旧のボランティア活動を中心とした被災者支援活動を行ってまいりました。

現在は、広島市復興連携本部並びに安佐南区復興連携センター及び安佐北区復興連携センターと名称を改め、被災生活から日常生活に移行するための生活支援と地域復興のための取り組みを継続して行っております。

また、本会が中心となって運営した災害ボランティアセンター及び復興連携センターを通じた支援活動や取り組み以外にも、町内会・自治会、自主防災会をはじめとした地域組織等の助け合いによる復旧活動や、支援団体による専門性を生かした活動が行われるなど、被災地域では様々な支援の動きがありました。こうした地域活動や様々なボランティア活動を本当に多くの方々に後押ししていただいたことは、被災された方の支援と今後の地域の復興・再生に大変大きな力となりました。

本会では、一昨年の豪雨災害における活動を振り返り、緊急時の体制、区災害ボランティアセンター運営マニュアルの見直し及び災害時に連携が必要な行政並びに関係機関・団体とより一層の協働・連携体制の強化に取り組んでおります。

今後とも関係機関・団体並びに地域の皆様と連携し、被災者支援活動に尽力してまいりますので、引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、この報告書は、本会の被災者支援活動の取り組みを総括し記録に留めるとともに、今後の災害時における被災者支援活動のあり方等についてまとめました。関係者の皆様の参考になれば幸いに存じます。

最後に、本報告書の作成にあたりご協力をいただきました関係者の皆様に心から厚くお礼申し上げます、発行のごあいさつとさせていただきます。

平成28年(2016年)3月

社会福祉法人広島市社会福祉協議会
会 長 山 本 一 隆

平成26年8月20日の豪雨災害
広島市・区社会福祉協議会活動報告書

第1章

広島市豪雨災害発生経過

豪雨災害発生の経過

1. 災害発生の背景

広島県内で大気の状態が非常に不安定となっていた8月19日夜から20日明け方にかけて、広島市を中心に猛烈な雨となり、広島市中心部の平和大通りも幹線道路がひざ下まで冠水しました。

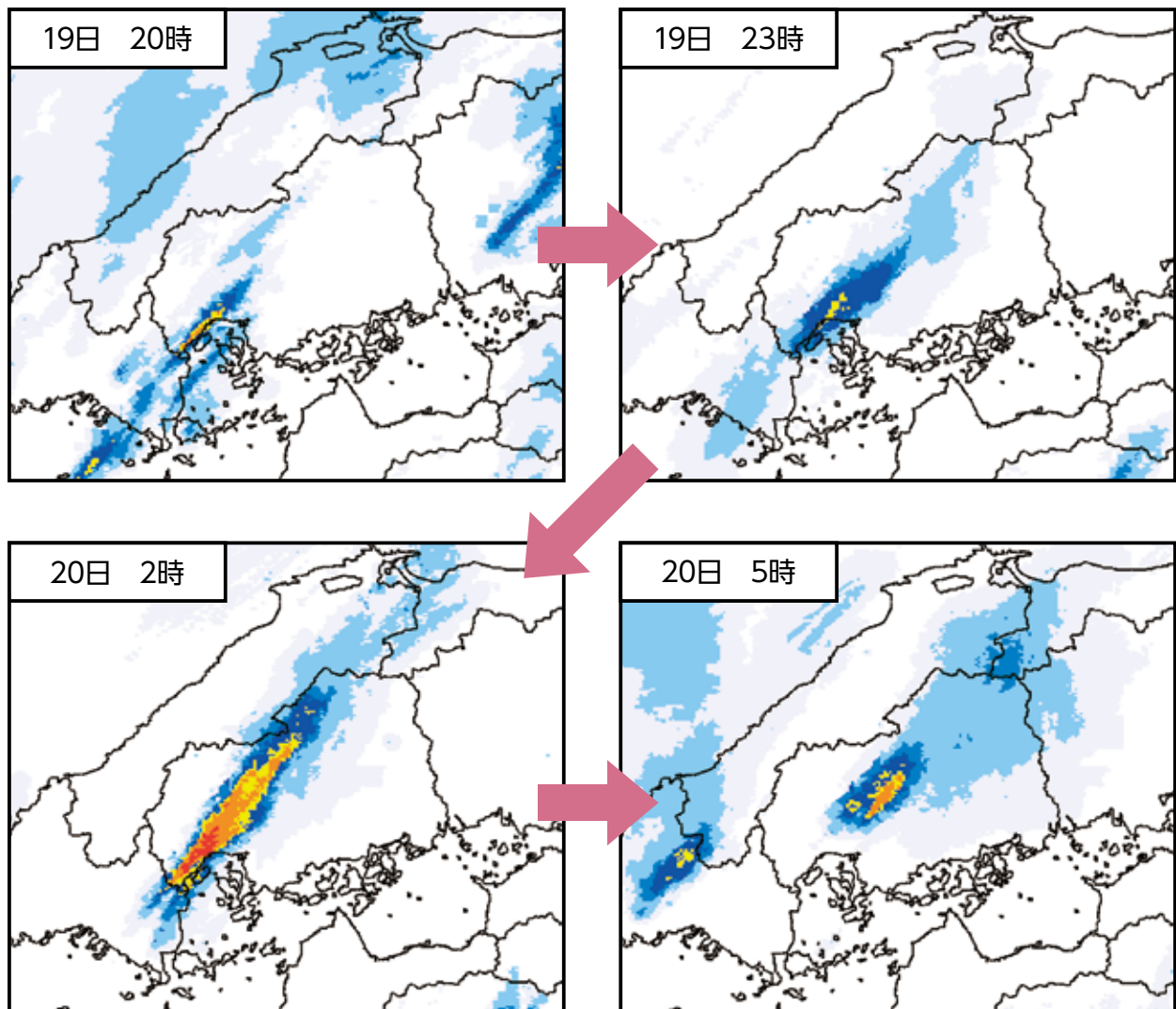
広島市安佐北区三入では、1時間降水量の日最大値101.0ミリ、3時間降水量の日最大値217.5ミリ、24時間降水量の日最大値257.0ミリを観測し、通年の観測史上1位を記録しました。

19日午後11時過ぎに雨はいったん小康状態となりましたが、20日午前0時過ぎには、広島市北西部及び隣接する廿日市市の山間部にかけて新たに積乱雲群が発生し、発達しながら東に移動しました。安佐南区及び安佐北区上空では、20日午前1時40分頃から再び雨が降り始め、線状降水帯の停滞とともに雨足が急激に強くなり、午前2時から4時までのわずか2時間で200ミリを超える猛烈なものとなりました。

また、平成26年8月は、すでに月間降水量が平年の2倍を超える多雨であったため、地盤の緩みが進んでいたことや、局地的、短時間に降った大雨により、20日未明にかけて広島市安佐南区・安佐北区の住宅地周辺の山が崩れて土石流が発生し、甚大な被害をもたらしました。

●雨雲レーダー

(平成26年8月19日～20日の天候)



【出典】内閣府「平成26年8月20日に発生した広島土砂災害の概要」

2. 気象に関する注意報・警報等と主な経過(8月19日から8月23日まで)

日付	時刻	発表状況
8月19日(火)	16時3分	大雨・洪水注意報発表(雷注意報継続)
	21時26分	大雨・洪水警報発表(雷注意報継続)
	23時33分	洪水警報解除(大雨警報、雷注意報継続)
8月20日(水)	0時57分	洪水注意報発表(大雨警報、雷注意報継続)
	1時15分	土砂災害警戒情報発表
	1時21分	洪水警報発表(大雨警報、雷注意報継続)
	16時20分	洪水注意報発表(大雨警報、雷注意報継続)
	18時30分	土砂災害警戒情報解除(大雨警報、洪水・雷注意報継続)
	22時39分	雷注意報解除(大雨警報、洪水注意報継続)
8月21日(木)	4時5分	大雨警報解除(大雨注意報発表、洪水注意報継続)
	10時20分	雷注意報発表(大雨注意報・洪水注意報継続)
8月22日(金)	5時2分	大雨警報発表(雷注意報・洪水注意報継続)
	16時7分	大雨警報解除(大雨注意報発表、雷注意報・洪水注意報継続)
	17時45分	雷注意報・洪水注意報解除(大雨注意報継続)
8月23日(土)	4時50分	雷注意報発表(大雨注意報継続)
	20時13分	大雨・雷注意報解除(警報・注意報発表なし)

被害状況

8月20日の未明に安佐南区及び安佐北区内において、同時多発的に大規模な土石流が約50ヶ所で発生し、土砂災害では過去30年間で最多の死者76名(関連死2名)、負傷者68名という人的被害となりました。また、家屋等損壊4,749件、被災世帯は、5,000世帯にも及ぶという甚大な被害をもたらし、土砂災害では過去30年間で最多の被害となりました。

(1) 人的被害(平成27年12月末現在)

単位：人

被害区分		安佐南区	安佐北区	合計
死者		70	6	76
負傷者	重傷	37	9	46
	軽傷	16	6	22
	小計	53	15	68
合計		123	21	144

(2) 物的被害(平成27年12月末現在)

単位：件

被害区分		安佐南区	安佐北区	その他	合計
住家	全壊	145	33	1	179
	半壊	122	95	0	217
	一部	106	73	10	189
	床上浸水	796	286	2	1,084
	床下浸水	2,278	784	18	3,080
山がけ崩れ		119	246	15	380

安佐南区及び安佐北区の被害状況



平成26年9月3日 中国新聞

安佐南区の被害状況



八木用水(緑井7丁目付近)



八木3丁目



八木3丁目



緑井7丁目



緑井8丁目

安佐北区の被害状況



大林(上根バイパス入り口)



大林



三入



三入



可部東



可部東

救援活動

発災直後から24時間体制で、警察、自衛隊、消防機関が合同による、行方不明者の捜索及び救助活動が行われました。緊急消防援助隊においては、陸上での救助活動に加え、ヘリコプターを使用して、陸上からの救助が困難な被災者を上空から救助しました。また、市内・県内の消防団による救助活動、女性消防団員による避難所での被災者に対するきめ細やかな支援活動や、災害救助犬による捜索も行われました。

団体	期間	延人数等
陸上自衛隊	8月20日(水)～9月11日(木)	14,990人
県内広域消防相互応援	8月20日(水)～9月 5日(金)	1,471人 車両309台
緊急消防援助活動	8月20日(水)～9月 5日(金)	2,634人 車両622台 ヘリコプター68機
消防団(県内・市内)	8月20日(水)～9月30日(火)	4,758人
災害救助犬に係る ボランティア団体	8月20日(水)～26日(木)	30団体、135人、 108頭



消防・警察・自衛隊による捜索活動



消防による救助活動

避難状況

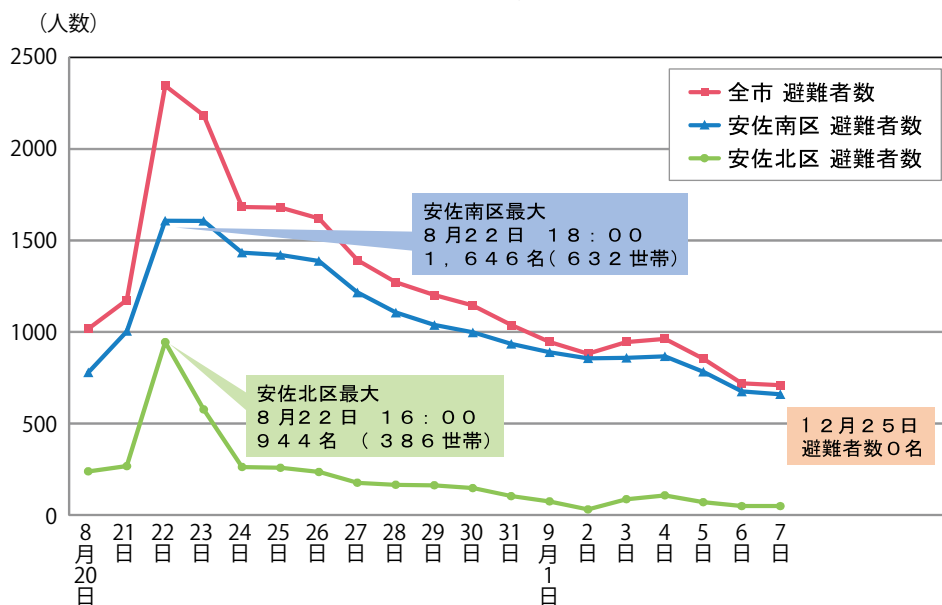
最も多くの方が避難された8月22日には、安佐南区で最大1,646人、安佐北区で最大944人名の方が避難所に避難されました。

その後は避難指示、避難勧告の解除により避難所に避難されていた方は徐々に減少していき、12月25日に全ての避難者が避難所を退所し、今回の災害で開設された避難所はすべて閉鎖されました。

広島市は、避難所に避難されなかった方々も含め、被災された方の生活再建への支援として、災害義援金や見舞金の支給をはじめ、市営住宅等の無償提供、災害援護資金の貸付など生活全般にわたる支援を行いました。

また、医師、看護師等による医療救護や、被災者の心身の健康面のケアとして、保健師の避難所常駐・巡回による健康管理など、きめ細かな対応が行われました。

避難者数



支援物資の仕分け



避難所の様子

(出典:平成26年8月19日からの大雨による避難所における生活環境対策等について)

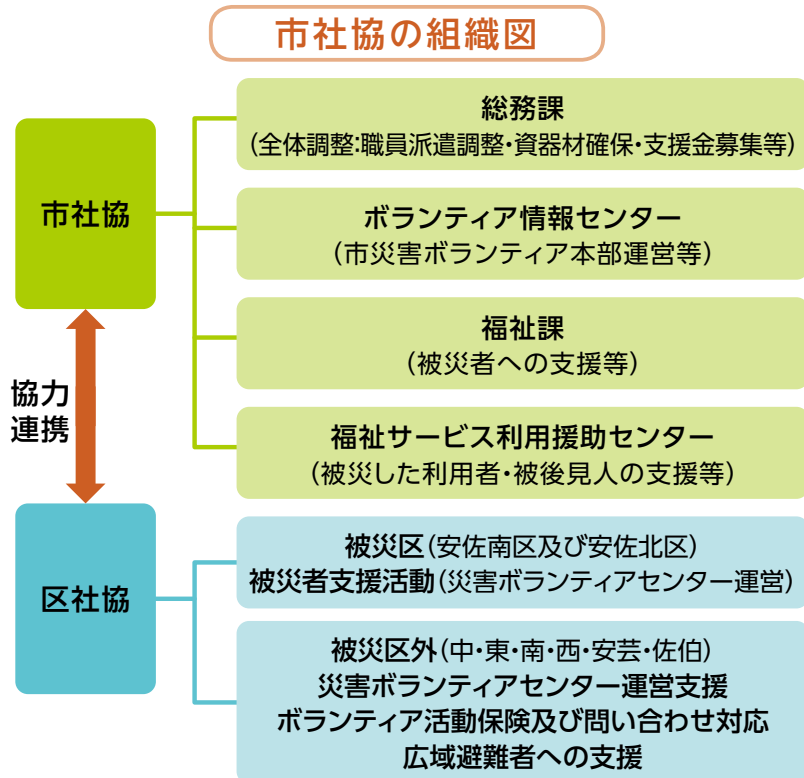
平成26年8月20日の豪雨災害
広島市・区社会福祉協議会活動報告書

第2章

被災者支援活動の経過

広島市社会福祉協議会の動き

広島市社会福祉協議会及び区社会福祉協議会(以下「社協」という。)は、平成26年8月20日の豪雨災害以降、次の組織図のとおり支援を行いました。なお、被災区の安佐南区及び安佐北区社協については第4章・第5章に記載しています。



1. 総務課

発災当日の8月20日、被災地域在住の職員・家族の安否確認や指定管理施設の被害状況の確認を安佐南区及び安佐北区社協を通じ行いました。職員が被災していることが想定されましたが、電話が繋がらなかったこと、道路が寸断されていたことなどから、詳しい状況が確認できたのは発災から2日後の22日でした。

21日には、市社協内及び被災区以外の区社協から、被災区の安佐南区社協及び安佐北区社協への職員応援派遣を調整し、翌22日から派遣を開始しました。また、広島県社協と今後の対策について協議し、県内市町社協からの職員派遣を要請しました。

発災から5日目の24日に、市社協の幹部職員及び8区の社協の事務局長による緊急区社協事務局長会議を開催し、安佐南区及び安佐北区の被災状況や災害ボランティアセンターの運営状況についての報告を行い、今後の運営方針について確認しました。また、災害ボランティアセンター運営支援への職員応援派遣体制についても協議し、市区社協からの本格的な職員応援派遣の調整を平成26年12月末まで行いました。派遣期間は、当初3日間でしたが、後任者との引き継ぎ期間などの必要性から、5日間の派遣へ変更しました。

発災当初から、市社協事務所のある広島市社会福祉センターには様々な問い合わせの電話が殺到し、ボランティア情報センターだけでなく、全ての課で電話対応に追われる状況が続きました。そこで、災害ボランティア本部専用の回線を確保するため、ひろしまNPOセンターの紹介により、NTTドコモ中国に携帯電話の借用を依頼し、安佐南区及び安佐北区災害ボランティアセンター分も合わせて、携帯電話57台、データカード6台を、通話料を含め無償で貸与していただきました。これらは、外部からの問い合わせや災害ボランティアセンターの各班の連絡用に使用しました。

また、安佐南区及び安佐北区災害ボランティアセンターから被災地域までの距離が離れていたことや、被災地域に生じていた交通渋滞を悪化させないため、ボランティアを活動場所まで移送するためのバスや資器材運搬のための車輛は必要不可欠でした。そのため、発災直後に、軽トラックなどのレンタカーやマイクロバスを確保する手配を行いました。軽トラックは業者自体の保有台数が少なく、調達は困難でした。マイクロバスは最大1日15台確保しましたが、待機時の駐車場確保などの課題もありました。

このほか、県社協の調整により、県内外の社協から資器材や車輛を貸与していただき、東広島市社協からはマイクロバスを、広島市老人福祉施設連盟や広島市障害福祉施設連盟からは、マイクロバスやワゴン車などを無償で貸与していただきました。車輛に関しては、活動中に事故や故障も発生し、車輛の修理、代車の確保などの対応を行いました。

災害発生後すぐに、広島県共同募金会からは災害準備金を送金いただき、合計で2,700万円の助成をいただきました。この準備金で災害ボランティアセンター立ち上げの諸経費、資器材の購入・運搬費、ボランティア送迎用バス借上げ料などに有効に活用させていただきました。

また、国際ロータリー第2710地区災害支援委員会から運営経費の助成や復興支援活動のための車両の寄贈、その他にも多くの個人や企業・団体の皆様から災害ボランティア活動支援金や広島市社会福祉協議会に対する見舞金など多大なご支援をいただきました。

2. ボランティア情報センター

発災当日の8月20日、広島市域での被災状況が分からないため、ボランティア情報センターから全区社協に電話で被災状況の確認を行いました。状況確認を行っている間には、広島市社会福祉センターを拠点として、広島市災害ボランティア活動連絡調整会議(以下「連絡調整会議」という。)(注1)による市災害ボランティア本部が立ち上がりました。そこへ県社協、災害ボランティア活動支援プロジェクト会議(注2)等の方々も次々に応援に駆けつけてくださり、今後の対応について検討するため、会議に次ぐ会議という状態が続きました。

このような状況の中、マスコミや災害ボランティア活動に関心のある方から、災害ボランティアセンターの立ち上げやボランティア活動に関する問い合わせが途切れることはなく、20時を過ぎても電話のコール音が鳴りやむことはありませんでした。このような問い合わせの電話は、8月23日に市災害ボランティア本部のフェイスブックを立ち上げ、「よくある問合せ」を掲載し情報発信したことで激減しました。

9月1日に、被災現場に近い場所で円滑な被災者支援活動の調整を行う為に、広島市災害ボランティア本部が安佐南区地域福祉センターに移転した後も、ボランティア情報センターに災害ボランティア活動に関する問合せが入りましたが、本部移転の情報が認知されたことにより徐々に少なくなり、10月以降はほとんど問い合わせが入らなくなりました。

また、被災地でのボランティア活動保険加入手続きの事務を軽減するため、9月中は、ボランティア情報センターで平日だけでなく土日祝日も保険の受付を行いました。9月末までに広島市社協及び8区社協で受け付けたボランティア活動保険加入者の人数の総数は、12,355名でした。

11月に入ると、地域住民からのボランティア活動の要望も少なくなってきたため、土のう袋、高圧洗浄機、一輪車、スコップなどの資器材の保管場所の確保や返却が必要となりました。そこで、安佐南区の緑井サテライト及び八木サテライト、安佐北区地域福祉センター、三入第一公園などで保管していた資器材を広島市及び県社協の協力を得て、広島西飛行場、広島市環境局旧広島中工場及び広島県防災拠点・防災航空センターを保管場所として確保し、移送のための調整を行いました。

3. 福祉課

社会福祉施設の被害状況を把握し、特に壊滅的な被害を受けた社会福祉法人やぎ「八木園」へ市社協から見舞金を贈りました。また、被災者を対象とした貸付事業について、県社協や広島市からの連絡事項を区社協を通じて広報しました。

(広域避難者への生活支援)

被災した自宅を離れ避難生活を送っておられる世帯を把握し、支援物資の提供等をすでに開始していた民間グループと「生活支援チーム」(Japan Hope・グリーンコープ生協ひろしま・広島たすけ隊・高校生災害復興支援ボランティア派遣隊・コミサポひろしま・市社会福祉協議会)を結成し、平成26年11月から生活支援を開始しました。避難先を把握できた世帯に支援申込書(必要な物アンケート含む)を渡して希望を募り、平成27年8月末時点で175世帯(内、社協担当54世帯)に、家庭訪問と引っ越し支援を行いました。家庭訪問では、担当世帯を決め、平成27年4月までは毎月訪問して支援物資をお届けしました。引っ越し支援では、再避難、避難元への引っ越し等、生活支援チーム内で車輛と人手を提供しあいました。

支援物資(提供者):米や調味料セット(グリーンコープ) 家電製品(ハイアールジャパンセールス(株))
夕食弁当(旬玉野) 生活用品(株)フレスタ) お菓子(カルビー(株))
野菜(国際ソロプチミスト広島・広島東部青果(株)) 他

4. 福祉サービス利用援助センター

福祉サービス利用援助センターでは、福祉サービス利用援助事業「かけはし」と、成年後見事業「こうけん」の2事業により、利用者・被後見人の生活を支える個別支援を行っています。

発災の知らせを受けて、まずは被災地域に住む利用者や被後見人の安否確認を、該当区社協の職員と手分けして行いました。幸いにして、利用者・被後見人ともに、生命に被害が及ぶことはありませんでした。

しかし、住宅が被害を受けて避難先から戻れなくなったり、次の発災があれば危険が及ぶと予測される地区に居住していたり、非日常的な環境に身を置いたことで精神的に非常に不安定な状態に陥ったりするなど、かけはし利用者の実利用者286名のうち4名の利用者、こうけん実受任5名のうち1名の被後見人には、大なり小なりの影響が及んでいました。

これらの方々に対しては、関係機関や地域の人たちと連携して、利用者・被後見人の安全確保や避難時に持ち出せなかった被災住宅内の貴重品確保、また、新たな住宅確保に関する支援等を行いました。

5. 被災区以外の区社協

被災区においては、8月22日にそれぞれ災害ボランティアセンターを立ち上げました。(詳細は第2章に記載)被災区外の区社協からは、発災から2日後の8月22日に被災区社協への応援職員の派遣を開始しました。また、24日の緊急事務局長会議での安佐南区及び安佐北区の被災状況や災害ボランティアセンターの運営状況についての報告を受け、市社協・区社協一体となって被災者支援活動を行なうことを確認しました。

区社協間の応援体制について細かい基準が設けられていなかったこと、災害対応経験の豊富な職員が限られていたこと、また、通常業務との兼ね合いなどもあり、職員の派遣日数や派遣人数などは状況に応じて

市社協総務課から調整を行いました。(平成26年12月末までに延べ422名を派遣)

当初、市社協や被災区社協への電話がつながりにくい状態が続いていたため、被災区外の区社協にも災害ボランティアに関することや支援物資の寄付、被災地の状況などについて、多くの問い合わせが入りました。市社協からの情報がタイムリーに届くようになるまで、フェイスブックやホームページに掲載されている情報をもとに対応をしていました。

また、ボランティア保険について、活動希望者に事前加入を周知していたため、市社協と被災区以外の区社協でも受付を行いました。特に、市社協や市中心部の中区社協では、加入手続きに来られる方が集中し、連日その対応に追われました。

(注1)広島市災害ボランティア活動連絡調整会議(連絡調整会議)

大規模災害時における被災者の安全確保や生活支援、行政の業務支援等のボランティア活動に係る諸問題の検討並びに相互の連携を強化し、災害時における円滑なボランティア活動が行える環境の整備を図るとともに、災害時におけるボランティアの効率的な活動に資することを目的とし、平常時は研究・審議・情報交換を実施する。

(構成団体)

(社福)広島市社会福祉協議会 広島市民生委員児童委員協議会 日本赤十字社広島県支部
(公財)広島YMCA 広島市地域女性団体連絡協議会 日本ボーイスカウト広島県連盟
(一社)ガールスカウト広島県連盟 (一社)広島青年会議所 広島商工会議所
連合広島 広島地域協議会 特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター SeRV広島
特定非営利活動法人コミュニティーリーダーひゅーるぼん 特定非営利活動法人 ANT-Hiroshima
カトリック広島司教区平和の使徒推進本部 広島県災害復興支援士業連絡会 生活協同組合ひろしま
(公社)青年海外協力協会中国支部 特定非営利活動法人もりメイト倶楽部Hiroshima
特定非営利活動法人ひろしま自然学校 (公財)広島市文化財団 広島市

(注2)災害ボランティア活動支援プロジェクト会議(略称:支援P(ピー))

災害ボランティア活動の環境整備を目指して災害ボランティア活動を支える人材、資源・物資、資金を有効に活用するための現地への広域的、即応的支援を行うネットワーク組織で、2004年の新潟中越地震の後、2005年1月より中央共同募金会に設置された。平常時には災害支援に関わる調査・研究、人材育成や啓発活動を実施している。

災害ボランティア本部の開設

広島市域では、災害時に連携して災害ボランティア活動を支援するために、広島市社協、ひろしまNPOセンター、生協、YMCA、NPO団体、広島市など22団体で構成する連絡調整会議を平成9年に設置しています。

今回の災害については、発災当日の8月20日の午後、構成団体で議長の広島市社協（ボランティア情報センター）、副議長のひろしまNPOセンター、事務局を担う広島市の三者協議により、「広島市災害ボランティア本部」を広島市社会福祉センターに設置することを決定とし、支援に向けての準備を開始しました。

翌21日には、安佐南区・安佐北区社協に、市社協及びその他6区の社協職員を派遣、県社協からも応援職員の派遣をいただき、被災状況の確認を行うとともに、現地災害ボランティアセンター設置に向けて準備を始めました。

当初は、本部内でのスタッフの役割分担が明確でなかったため、情報共有・発信などで混乱が生じました。22日に両区の災害ボランティアセンターが設置されましたが、本部、安佐南区、安佐北区と、拠点があつた3か所に分かれ、特に本部と各センターが離れた場所にあつたため、相互の情報共有が課題となり、26日からは本部スタッフが両区の夜ミーティングに参加するなど、各区の活動状況確認に向き、情報共有に努めました。しかしながら、災害の規模が当初の見込みより大きいことが把握できたことから、本部と迅速かつ効果的に運営するために、9月1日からは本部を安佐南区災害ボランティアセンターと同じ場所に移し、迅速な判断と、三者での協議がしやすくなる体制を整えました。

発災直後から、災害ボランティア活動支援プロジェクト会議や、全社協、県社協職員など、被災地での支援活動経験が豊富なメンバーが駆けつけてくださったことは大きな安心材料となりました。その後も運営方針や支援活動の方向性などについて適切なアドバイスを受けながら協議を重ねるなど、様々な場面で多大な支援をいただきました。特に広島県社協には、災害発生直後から、一体となって組織としての災害対応や支援体制づくりに取り組み、県内市町社協や中国ブロック社協（中国地方の県市町社協）全社協への職員応援派遣調整の対応や災害対応の経験豊富な職員を継続して派遣していただき、経験の少ない市・区社協職員にとって本当に心強く、精神的に支えていただきました。

本部運営は、連絡調整会議の構成団体のうち5団体が継続的に運営を担いました。中でも、ひろしまNPOセンターからは毎日2名が常駐し、本部及び両区の災害ボランティアセンターへの連絡調整会議構成団体メンバーの派遣調整をはじめ、マスコミ対応や会議やミーティング進行、NPOのネットワークを活用した様々な機関との調整など、総務的な役割を担いました。また、本部をはじめ、両区の災害ボランティアセンターに継続して多数のスタッフを派遣した広島県災害復興支援士業連絡会や青年海外協力協会など、連絡調整会議構成団体は、本部・安佐南区・安佐北区災害ボランティアセンター全体で、延べ1000人を超えるスタッフが運営にあたりました。

区災害ボランティアセンターの開設

8月22日、被災した安佐南区及び安佐北区社協は、それぞれ区災害ボランティアセンターを開設しました。23日からは、ボランティア活動者の受け入れを開始し、被災者からのニーズを受け、主に宅地内や周辺道路に入った土砂撤去等の活動を行いました。初動時期は、悪天候による活動中止や、人命救助活動、避難勧告・避難指示による立ち入り禁止区域、重機による作業との調整等ボランティア活動が制限されたことから、広島県内からのボランティア活動者のみ受け入れをしていました。そのような状況でも、30日には、3,265人のボランティアによるご支援をいただき、9月4日には、すべての避難指示の解除等に伴い、ボランティア活動地域が拡大したことにより、県外のボランティア活動者(団体)の受け入れを開始しました。

拠点となる設置場所については、広島市地域防災計画に各区地域福祉センターが指定場所として明記されていました。安佐南区は1階部分が駐車場であるため、利用者への周知が間に合わないなどの理由から、当初は使用することができず、代替場所の調整が必要となりました。県社協の働きかけもあり、被災地に近い庄原産直市跡地(八木4丁目)でボランティアの受付を開始することができましたが、発災から3日後の25日から区地域福祉センター1階駐車場に変更しました。しかし、多くのボランティアを受け入れるには狭小であったこと、送り出しに時間を要したこと、また、短期間での災害ボランティアセンター本部拠点の変更などに伴い混乱が生じました。安佐北区については、地域福祉センターの建物構造の違いから、1階ロビーを全面使用することができました。

1. 安佐南区災害ボランティアセンターの開設

安佐南区社協は、8月20日の災害の発生を受け、区災害対策本部へ出向き情報収集を行うとともに、区内のNPO、近隣の区市町社協職員、区ボランティア連絡会の協力のもと、現地調査、センター開設場所の確保など、災害ボランティアセンターの開設準備にあたりました。

8月22日に安佐南区災害ボランティアセンターを安佐南区地域福祉センターに開設することとし、庄原産直市跡地(八木4丁目)に八木サテライトを設置し、翌23日から八木サテライトにてボランティア活動者の受け入れを開始しました。

25日からは、安佐南区地域福祉センター1階駐車場にてボランティア受付を行い、センターでの混乱を避けるため、被災場所に近い八木サテライト(庄原産直市跡地)へバスで送り出し、八木サテライトは、災害ボランティアセンターから送り出したボランティア活動者と依頼現場をつなぐ役割を担いました。

9月1日より広島経済大学興動館「被災地域支援ボランティア受付窓口」に山本地区の復旧支援ニーズの対応を担っていただき、7日には緑井サテライト(緑井第5公園)を設置し、緑井地区のニーズ対応を行うようにしました。

安佐南区の被災場所はほとんどが住宅密集地にあり駐車スペースの確保が難しいこと、区災害ボランティアセンターから被災場所までは距離があったことなどから、区地域福祉センター近隣の古市小学校、商業施設などに協力していただき、ボランティア専用の駐車場を確保しました。また、区災害ボランティアセンターから被災現場までは、市内の各バス会社や日ごろからつながりのある地域の団体、福祉施設などにご協力いただいて、ボランティア活動者専用のマイクロバスを確保して現地へ送り出しを行いました。

安佐南区災害ボランティアセンターの運営には、数多くの個人ボランティアの方々、各種団体、ボランティアグループ、町内会・自治会、民生委員児童委員協議会、地区社協など多くのご協力をいただきました。

2. 安佐北区災害ボランティアセンターの開設

安佐北区社協は、発災当日の8月20日に被害状況の把握（現地確認、区内28地区社協に状況確認）を行い、安佐北区災害ボランティアセンターの設置準備にあたりました。

発災直後から日ごろからつながりのある地域の方、区内のNPO、近隣の区市町社協職員などがかけつけてくださいました。

22日に、安佐北区災害ボランティアセンターを安佐北区地域福祉センターに開設し、23日からボランティア活動の受け入れを開始しました。

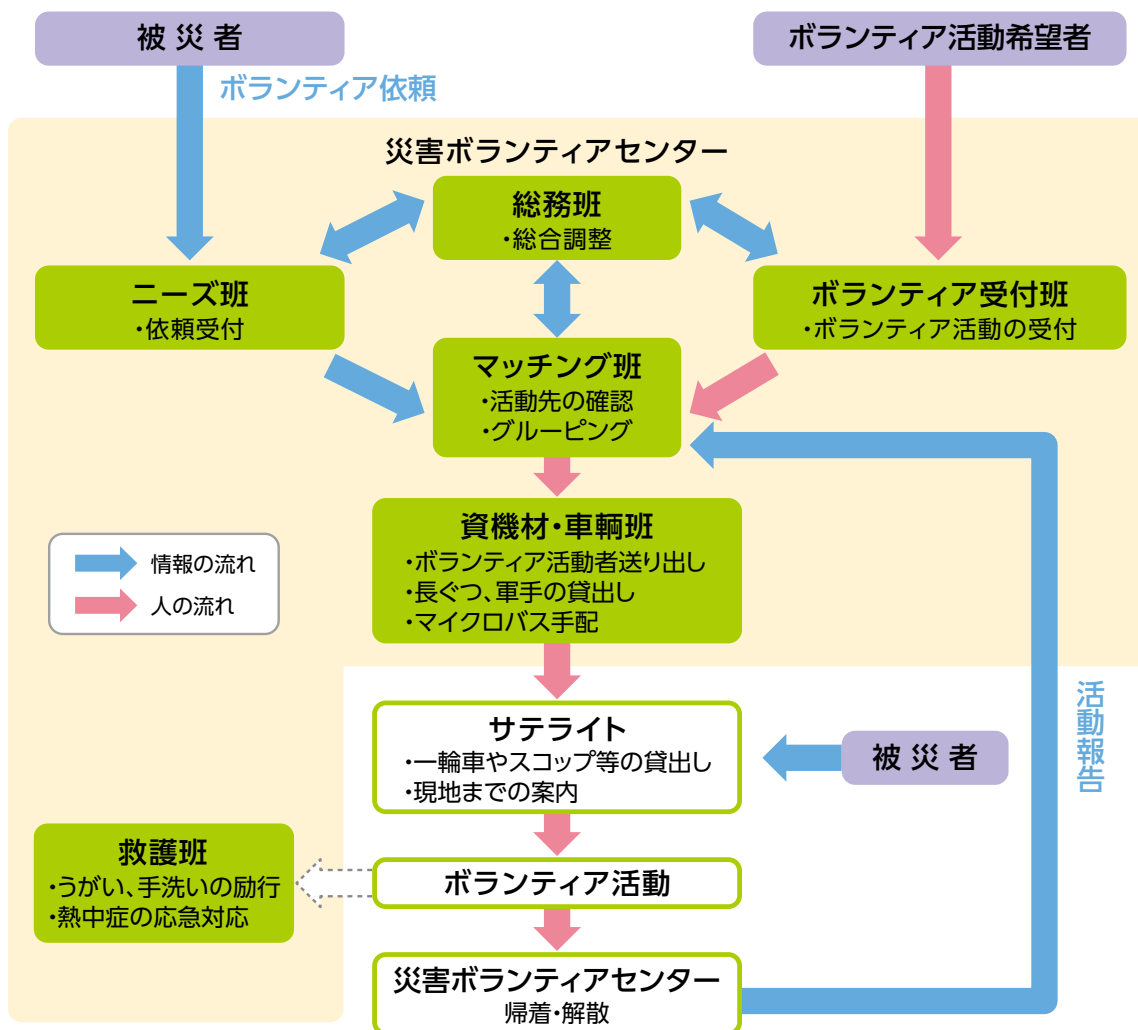
大林地区、三入地区では、発災当日に地域の自治会、自主防災会、地区社協等が中心となって現地災害対策本部を立ち上げられました。その後、区災害ボランティアセンターは現地災害対策本部の方と連携して、大林及び三入にサテライトを設置しました。

また、可部地区では避難指示が解除された30日以降、自治会、民生委員児童委員協議会等と連携し、可部東サテライト(9月1日開設)、ボランティア休憩所(新建集会所)を設置しました。

安佐北区災害ボランティアセンターには、広島大学の「OPERATIONつながり」のメンバーをはじめとして多くの学生が支援に入ってくださいました。また、日ごろからつながりのある地域の団体、外部からの支援団体と連携しながらセンターを運営することができました。

3. 区災害ボランティアセンターの仕組みと役割

区災害ボランティアセンターの主な役割は、ボランティアを必要とする被災者とボランティア活動希望者の支援のつなぎ役です。業務ごとに班を編成し、被災者の依頼のもとにボランティアを調整し、送り出しを行いました。



4. サテライトの設置

今回の災害では、各地区のボランティア活動拠点として、区災害ボランティアセンターのサテライトが設置されました。また、サテライトの運営では、地域のみなさんが中心となって、区災害ボランティアセンターから送り出したボランティア活動者と被災された方をつなぐ役割を担いました。地域の状況を十分に把握している方がいてくださったことで、被災された方それぞれのニーズにきめ細やかに対応することができました。また、地域のみなさんとボランティアのコミュニケーションの場としても機能しました。

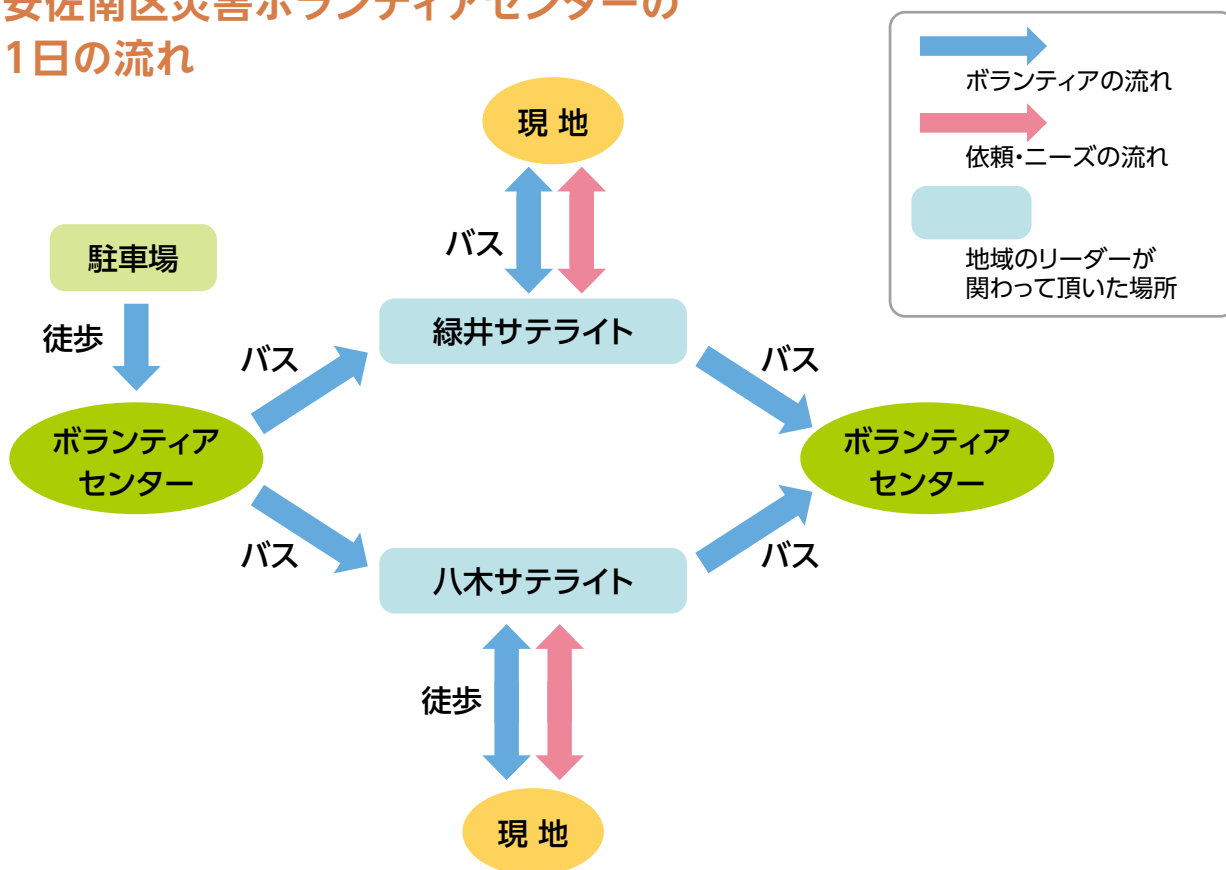
〈主な役割〉

- ボランティア活動の依頼受付
- 活動現場への案内
- 活動報告の聞き取り
- 活動現場の確認
- 活動前のオリエンテーション(注意事項説明)
- 土のう袋、スコップなどの資器材の貸し出し・運搬 など

安佐南区

被災場所に近い場所に八木サテライト(庄原産直市跡地)では、区災害ボランティアセンターからバスで送り出したボランティアに対し、活動現場の説明、資器材貸与、活動現場への誘導を行いました。(地域福祉センターが使用できるまで災害ボランティアセンターとして機能していたため、直接来られるボランティアの受付も行いました。)9月3日以降は、被災地と離れていることによるトラブルを防ぐため、区災害ボランティアセンター本部が担っていたマッチング作業を移管しました。また、9月7日から緑井サテライト(緑井第5公園)を設置し、緑井地区のニーズに対応しました。

安佐南区災害ボランティアセンターの1日の流れ

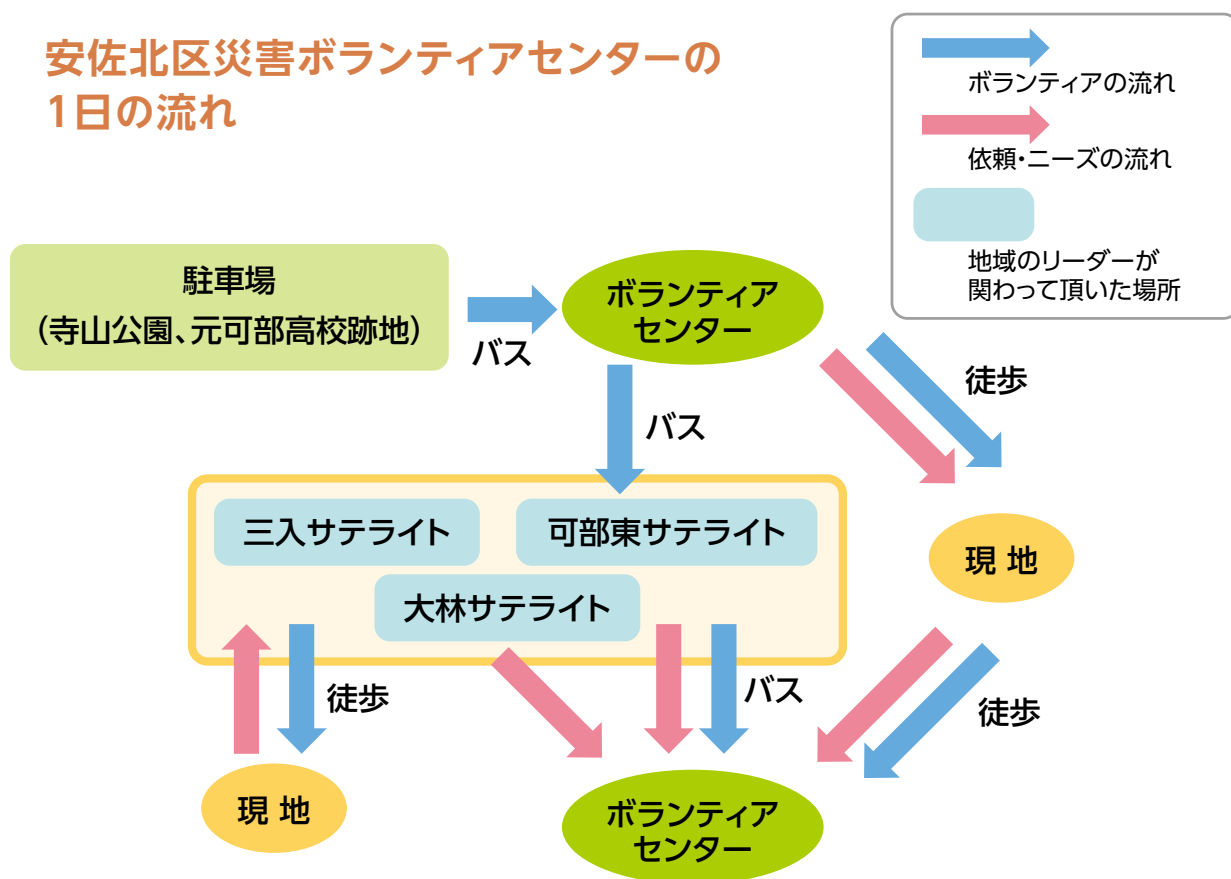


安佐北区

安佐北区のサテライトの特徴は、自治会・自主防災会・民生委員児童委員協議会・地区社協が中心となって、被災者の情報やニーズを取りまとめたことでした。このことから、区災害ボランティアセンターから送り出したボランティア活動者と被災された方を効果的につなぐ役割を担っていただきました。

また、多くの学生が地域のみなさんと連携し、区災害ボランティアセンターで受付・マッチングを行った後に、バスで移動してきたボランティアに対し、活動現場に案内したり、自家用車で移動したボランティアには駐車場への案内も行いました。

安佐北区災害ボランティアセンターの1日の流れ



災害ボランティア本部及び区災害ボランティアセンターの経過

月日	市災害ボランティア本部	区災害ボランティアセンター	
		安佐南区	安佐北区
8/20(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・災害状況を確認し、市社協・ひろしまNPOセンター、広島市で対応を協議 ・広島市社協災害対策本部設置 ・広島市災害ボランティア本部設置 ・災害ボランティア活動支援プロジェクト会議からの応援派遣開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・被災状況の確認(区災害対策本部での情報収集) ・災害ボランティアセンター開設準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・被災状況の確認(現地確認) ・災害ボランティアセンター開設準備
8/21(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・市社協ホームページに災害ボランティアセンター情報掲載 ・本部スタッフ会議開催(毎日19時から開催を確認) ・全国社会福祉協議会職員現地入り ・市・区社協職員派遣開始 ・広島県社協職員応援派遣開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・現地踏査 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害ボランティアセンター設置に伴う地域への協力依頼
8/22(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回広島市災害ボランティア活動連絡調整会議(発災後第1回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・安佐南区・安佐北区災害ボランティアセンター設置 ※活動は雨天のため中止 	
8/23(土)	<ul style="list-style-type: none"> ・本部フェイスブック立ち上げ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動開始 ・サテライト設置(庄原産直市跡) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動開始 ・サテライト設置(大林小学校、三入小学校)
8/24(日)		<ul style="list-style-type: none"> ・雨天のため活動中止 ・受付用電話の増設 ・駐車場確保の調整 →古市小学校のグラウンドを借用 	
8/25(月)		<ul style="list-style-type: none"> ・受付場所を変更(庄原産直市跡→安佐南区地域福祉センター) ・広島市より連絡調整係として職員派遣開始 ・JA全農ひろしま駐車場の借用 	<ul style="list-style-type: none"> ・広島市より連絡調整係として、職員派遣開始
8/26(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・団体ボランティア受付用紙を公開 ・本部スタッフの各区災害ボランティアセンターの夜ミーティングへの出席を定例化 	<ul style="list-style-type: none"> ・広島県訪問看護協会に、災害ボランティアセンター救護班への看護師配置を依頼 →2名体制で派遣 	<ul style="list-style-type: none"> ・安佐北区災害対策本部地域関係者会議出席 ・被災者支援チームによる訪問活動開始
8/27(水)		<ul style="list-style-type: none"> ・ワッペン(ボランティア・スタッフ用の目印)の使用を開始 	
8/28(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・社協職員及びボランティアスタッフ増員の呼びかけ ・本部公式ホームページ立ち上げ 		

月日	市災害ボランティア本部	区災害ボランティアセンター	
		安佐南区	安佐北区
8/29(金)	・連絡調整会議各団体に土日の運営スタッフ増員を依頼	・学区社協会長・自主防災会長を招集し、緊急会議を開催 →災害ボランティアセンターの周知、被災地以外の地区への協力依頼	
8/30(土)	・市社協ホームページから本部公式ホームページへ移転	・広島市から応援職員3名配置(土・日・祝)を開始	
8/31(日)	・記者発表の定例化→必要に応じて実施に変更	・現場踏査・ポスティング(緑井7丁目)	
9/1(月)	・本部移転(市社会福祉センター→安佐南区地域福祉センター)	・避難所(八木・梅林・緑井小)へポスターを配布 ・広島経済大学興動館「被災地域支援ボランティア受付窓口」と被災者支援活動について協議 →活動エリアについて確認	・可部東サテライト(台集会所)、ボランティア休憩所(新建集会所)を設置
9/2(火)	・第1回NPO・NGO支援連絡会議(26団体参加)	・広島経済大学「被災地域支援ボランティア受付窓口」と打ち合わせ ・地区社協、民児協へボランティアスタッフの依頼	
9/3(水)	・第3回広島市災害ボランティア活動連絡調整会議		
9/4(木)	・県外ボランティア団体の受付開始(記者発表) ・第2回三者会議開催(本部・安佐南・安佐北)⇒以降週1回開催	・雨天のため活動中止	
9/5(金)		・県内団体受付を再開始 ・マッチング機能を八木サテライトへ移管	・お掃除ボランティアの受付開始
9/6(土)		・緑井サテライト開設準備	
9/7(日)		・緑井サテライト開所	・大林サテライト閉所
9/8(月)			・ボランティア駐車場変更(元可部高校跡地→寺山公園)
	・第3回三者会議開催(本部・安佐南・安佐北)		
9/10(水)		・災害ボランティアセンター移行に際し、被災地の状況把握のための地域関係団体への調査協力依頼	
9/11(木)	・第4回広島市災害ボランティア活動連絡調整会議	・ニーズ把握調査実施(梅林地区)	
9/12(金)		・ニーズ把握調査実施(八木小学校)	

月日	市災害ボランティア本部	区災害ボランティアセンター	
		安佐南区	安佐北区
9/13(土)	・第5回広島市災害ボランティア活動連絡調整会議 ・ボランティア受け入れの延べ人数が3万人を突破		
9/15(月)	・広島市に災害ボランティアセンターの状況説明	・八木小学校内の八木地区ボランティアセンター閉所	
9/16(火)	・第4回三者会議開催(本部・安佐南・安佐北)		
	・第6回広島市災害ボランティア活動連絡調整会議 ・翌日のボランティア受け入れ人数をフェイスブックに掲載開始		
9/17(水)	・第2回NPO・NGO支援連絡会議(34団体参加)	・厚労省政務官視察対応(八木サテライト)	
9/18(木)	・安佐北区災害ボランティアセンターと市ボランティア本部情報共有の協議 ・安佐南区災害ボランティアセンターと市ボランティア本部情報共有の協議	・ <u>災害ボランティアセンターの状況説明と復興連携センター移行について地元合意</u>	・ <u>災害ボランティアセンターの状況説明と復興連携センター移行について地元合意</u> ・三入サテライト閉所
9/20(土)	・第5回三者会議開催(本部・安佐南・安佐北)		
9/21(日)	・佐東出張所で河川課とニーズすりあわせ協議	・八敷福祉会館でのボランティア調整が終了	
9/22(月)	・第6回三者会議開催(本部・安佐南・安佐北)		
9/23(火)	・台風のため、9月24日、25日のボランティア活動中止決定		
9/24(水)	・土のう撤去のボランティア調整について、広島市と協議		
9/25(木)	・第7回三者会議開催(本部・安佐南・安佐北)		
9/26(金)	・県社協へ県内市町社協職員派遣要請(10月からの体制移行に伴い2枠派遣)	・区ボランティア連絡会から被災者支援活動協力の申し出あり。 →元気づけ隊として活動開始	
9/27(土)	・第8回三者会議開催(本部・安佐南・安佐北) ・ボランティア受け入れの延べ人数が4万人を突破		・8月20日 第一弾 災害支援ボランティア講演(子どもネットワーク可部)
9/28(日)	・第7回広島市災害ボランティア活動連絡調整会議	・駐車場を古市小学校からイオン祇園店へ変更	
9/29(月)	・第9回三者会議開催(本部・安佐南・安佐北) ・10月以降の体制移行発表(復興連携センターへの移行) ・可部東サテライト閉所		
9/30(火)	・第3回NPO・NGO支援連絡会議	・八木サテライト閉所	
10/1(水)	・ <u>広島市復興連携本部へ移行</u>	・ <u>安佐南区復興連携センターへ移行</u>	・ <u>安佐北区復興連携センターへ移行</u>

復興連携本部及び区復興連携センターへの移行

県内外から4万人を超える多くのボランティアの方々のご支援により、発災から約1か月を経過すると、大人数での土砂撤去作業に一定の目途がつき、復興の兆しが見えてきました。このことから、活動内容も少人数での家屋清掃や生活支援のための訪問活動など、日常生活の復旧に重点を移す必要が生じました。

そのため、10月1日には、地域の復旧状況の変化と、生活支援のように専門職等と連携した、きめ細かな対応策が求められたことから、被災地の地区社協、町内会・自治会、民児協など地元支援者の了解を得て、広島市災害ボランティア本部は広島市復興連携本部へ、区災害ボランティアセンターは区復興連携センターへと移行しました。

移行後は、県内の関係機関や団体など各方面の協力と連携をいただき、そのニーズが災害ボランティア活動者に支援を求めるものなのか、地元住民主体、地元支援団体主体で復興支援活動として行うものなのかを見極め、住民の皆様が被災生活から日常生活に移行するための生活支援として困りごと相談や、被災者と地域住民が一緒に集えるサロン(カフェ)の開設など、地域復興へ向けた取り組みを継続して行いました。

なお、11月4日からは、ボランティア受付を、事前登録制へと変更しました。

移行後(平成26年10月1日から10月31日)

平日は、各区復興連携センターが、被災した地域を訪問し、困りごとを伺いました。

土・日の活動日当日に、安佐南区復興連携センターがボランティア活動者の受付を行い、安佐南区・安佐北区へ活動者を紹介しました。

平成26年11月4日～現在まで

ボランティア活動者の受付を依頼者のニーズに柔軟に対応できるように、事前登録制に変更しました。家屋の清掃や泥だしの他にも、地域でのサロン(カフェ)の開催により、被災した人や地域の人々が気軽に集える場で、困りごとや状況を聞くなどコミュニケーションをとりながら継続してニーズ把握を行なっています。

区復興連携センターの取り組み

●個別支援

- ・個別訪問活動、チラシ配布
- ・生活上の困りごと相談受付
- ・ボランティア要望聞き取り
- ・避難者の支援

●地域支援

- ・サロン活動支援
- ・イベント調整・支援
- ・防災教室の開催
- ・見守り・訪問活動

●関係機関等との連携

- ・関係機関・団体との情報交換
- ・ボランティア団体紹介
- ・専門職(弁護士、司法書士など)との連携

●情報発信

- ・広報誌作成、配布
- ・フェイスブックでの活動報告
- ・災害関連の情報提供

復興連携本部及び区復興連携センターの経過

月	市復興連携本部	区復興連携センター	
		安佐南区	安佐北区
10月	10/1	広島市復興連携本部・安佐南区・安佐北区復興連携センターへの移行(10/1~3移行準備)	
	10/4	復興連携センターでのボランティア受付開始(土日:土砂出し・平日:生活支援中心)	
	10/7	移行後第1回三者会議開催(本部・安佐南区・安佐北区)	
	10/21	移行後第2回三者会議開催(本部・安佐南区・安佐北区)	
	10/27 県内市町社協からの安佐南区への職員派遣を10月末で終了	10/7 ロータリークラブ 地区協議会(災害支援委員会)へ出席	10/17 すまいるペリカン(個別訪問)開始
	10/31 ・第4回NPO・NGO支援連絡会(最終回) ・8.20広島復興支援市民会議(第1回)	10/15 生活支援班として初の個別訪問活動を実施	10/23 「安佐北区災害復旧活動のふりかえりと今後のビジョンを語り合う会」開催
		10/18 八木学区(すずらん会)発災後、初のサロン開催	10/25 すまいるカフェ大林開催 ※被災者と地域住民の行き場づくり活動
		10/24 佐東北民生区 定例地区民協において、安佐南区復興連携センターの取り組みについて説明	10/27 すまいるカフェ可部東開催
			10/31 安佐北区復興連携センターフェイスブック立ち上げ
11月	11/1 復興連携本部移転 (安佐南区地域福祉センター→市社協ボランティア情報センター内)	11/2 安佐南区復興連携センターフェイスブック立ち上げ	11/1 すまいる通信No.1発行
	広域避難者へ「生活支援チーム」による生活支援開始	11/12 安佐南区緑井サテライト閉所	11/23 すまいるカフェ三入開催
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・天皇陛下行幸啓 ・大和証券助成金贈呈式 ・国際ロータリークラブ第2710地区贈呈式(軽自動車3台他 寄贈) ・広島市域地区社協役員等実践講座「被災地域の実践から学ぶ」 ・ボランティアコーディネーター養成講座(応用編)「広島土砂災害から考える、ボランティアコーディネーションとは」 		

月	市復興連携本部	区復興連携センター	
		安佐南区	安佐北区
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・8.20土砂災害における災害ボランティアセンター運営に関する情報共有の集い(市・区社協職員対象) 	<ul style="list-style-type: none"> ・梅林学区社協が発災後初めてのサロン開催。 ・22学区社協へ防災用資器材提供について情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度安佐北区まちづくりを考える会
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・県知事を囲む会「被災地区社協の取り組み」 ・広島市域地区社協会長・地域福祉推進委員合同研究協議会「豪雨災害時の活動報告とふりかえり～市域社協としての今度の災害対応について」 ・「豪雨災害での活動～避難所支援から見えたもの～」 ・広島市ボランティア情報センター利用者連絡会学習会「広島土砂災害から半年たった今」 	<ul style="list-style-type: none"> 2/20～21 つなぐプロジェクト 	<ul style="list-style-type: none"> ・2/1 やさしさのまちづくり 屋台村 8.20 被災者支援企画 「動いて笑って頑張ろうよ 可部まち」 ・2/11復興すまいるフェスタ ・2/20 災害後のこころのケア研修会
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・南区災害ボランティアセンター開設・運営研修会 ・資器材保管場所調整完了 	<ul style="list-style-type: none"> ・雑巾プロジェクトで作った雑巾を山本・緑井・梅林小へ配布 	<ul style="list-style-type: none"> ・広域避難者対象カフェ開催(高陽地区) ・公民館まつりへの参加(災害報告)
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・見舞金・ボランティア活動支援金・支援物資など寄付者(団体・個人)への礼状発送 	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼらせんかわら版創刊号(月1回) ・スクラップブックプロジェクト 	
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の区役所と区社協の連携について訪問協議(全区)～6月 ・災害ボランティアセンター課題検討会議(計4回)～6月 	<ul style="list-style-type: none"> ・土のう袋積み方講習会 ・安佐南区自主防災連合会研修会 	
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時危機管理カード作成(市社協職員対象) ・連絡調整会議災害ボランティア本部マニュアル改正ワーキング会議(4回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ちよこつと備える防災教室(毎月1・15日) 	<ul style="list-style-type: none"> ・安佐北区災害ボランティアセンターふりかえりの会
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・見舞金・ボランティア活動支援金・支援物資など寄付者(団体・個人)HPで紹介 		<ul style="list-style-type: none"> ・復興支援ひまわり大作戦(東原町内会)
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・広島豪雨災害犠牲者追悼式 ・広島市災害ボランティア本部運営マニュアル改訂(暫定版) 	<ul style="list-style-type: none"> ・梅林学区犠牲者慰霊碑の除幕・追悼式(梅林学区自主防災連合会) ・慰霊と感謝の会(佐東公民館) 	<ul style="list-style-type: none"> ・献花式(可部東) ・安佐北区地域福祉センター1階から4回へ移動(8月末)

ボランティア活動者の状況

1. ボランティア活動者数

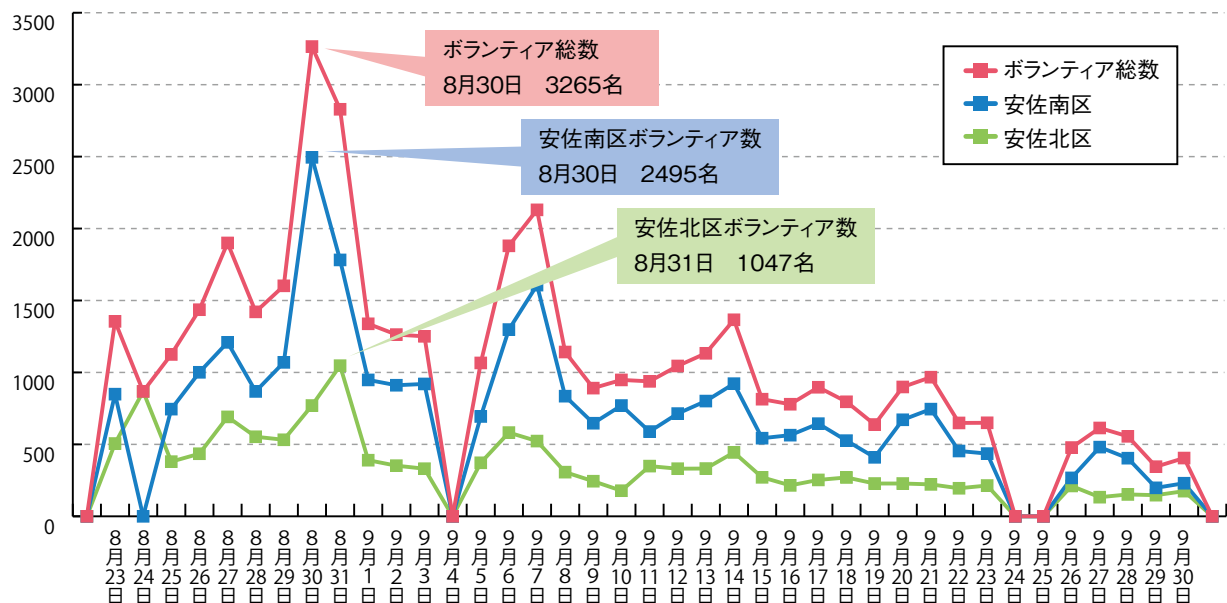
ボランティアの受け入れを開始した8月23日から9月30日(復興連携センターに移行前)までに、41,679名のボランティアに安佐南区及び安佐北区で活動していただきました。(ただし、活動者数は災害ボランティアセンターを通して活動した人数)

短期間で多くのボランティアのご支援をいただいたことにより、1,531件の活動要望(平成26年8月23日～平成26年9月30日)を完了することができました。また、今回参加されたボランティア活動者の特徴として、学校が夏休み期間であったことから、多くの高校生、大学生等が活動に参加し、大きな役割を担っていただきました。

※平成26年8月23日から平成28年1月31日までのボランティア活動者数は延べ **44,485名**

(安佐南区:29,853名、安佐北区:14,632名)

ボランティア活動者推移(平成26年8月23日～平成26年9月30日)



ボランティア集合場所(安佐南区緑道公園)

2. ボランティア団体(県内外)による活動

区災害ボランティアセンター開設当初は、避難指示・避難勧告が発令されており、ボランティアが安全に活動できる場所が制限されていたためボランティアの受け入れを個人・団体ともに県内と限定していました。

避難指示の解除に伴い、ボランティアが活動できるエリアが広がったことから、9月4日から県外のボランティア団体の活動受付を開始しました。団体の受付は、本部が一括して行い、区災害ボランティアセンターと連携しながら、調整した結果、県外からは、9月4日から9月30日の間に、延べ48団体934名の参加があり、とても大きな力を貸していただきました。

3. ボランティア活動の内容

活動の内容は、主に家屋や床下に入りこんだ土砂の撤去、土砂で汚れた家具の清掃などでした。また、被災された方のご自宅付近の道路や、側溝にも土砂が流れ込んでいたこともあり、ボランティア活動で対応する場合も多々ありました。

9月末で、大人数で対応する土砂出しについての要望は減少したことから、10月からは家屋内の清掃や自立生活の再建へ向けて、被災生活から日常生活に移行するための生活支援としての訪問活動や、地域の復興へ向けた地域で集えるサロンの開催などの取り組みを中心に行いました。

ボランティアや区災害ボランティアセンター運営スタッフは毎日ワッペンを貼って活動しました。これは、被災者の方からの「ボランティアを装って敷地内に入る人がいるのでは?」というご心配の声をいただいたことがきっかけでした。区災害ボランティアセンターで登録いただいたボランティア用のワッペン(青)とスタッフ用のワッペン(ピンク)を作り、見えやすいところに貼って活動しました。このワッペンが被災者にとってひとつの安心材料になったとの声もありました。



ワッペンをつけて活動



活動後にはワッペンを貼っていただきました!

ボランティア活動者の様子



八木8丁目



大林地区



八木8丁目



可部東



大林地区



可部東



可部東地区



八木3丁目



緑井4丁目

関係機関等からの協力

連日、1,000人を超えるボランティアの対応など、区災害ボランティアセンターの運営において、運営体制の組織対応が行えたのも、関係機関の皆様からの応援があったからこそと言えます。

市災害ボランティア本部及び区災害ボランティアセンターの運営にあたり、広島県内より県社協が延べ192人、市町社協より延べ290人、中国ブロック県・市社協より延べ278人、全国ブロック社協では四国、九州地区を中心に延べ92人、と多数の職員派遣をいただきました。(広島市各区社協は延べ369人、市社協は延べ219人を派遣)

また、災害ボランティア活動支援プロジェクト会議より延べ234人、災害ボランティア活動連絡調整会議より延べ839人の派遣をいただきました。

災害ボランティアセンター運営支援者派遣者数(H26年8月21日～10月31日)

延べ 2,513人

〈県内外社協職員 延べ852人〉

広島県内	県社協	市町社協	合計(人)			
	192	290	482			
中国ブロック	岡山県	鳥取県	島根県	山口県	岡山市	合計(人)
	57	104	44	54	19	278
全国ブロック	四国	九州	合計(人)			
	40	52	92			

〈広島市・区社協職員 延べ588人〉

広島市内	市社協	各区社協	合計(人)
	219	369	588

〈災害ボランティア活動支援プロジェクト会議 延べ234人〉

〈災害ボランティア活動連絡調整会議 15団体 延べ839人〉

本部	安佐南区	安佐北区	合計(人)
89	587	163	839

〈助成金・支援金・見舞金〉

多くの個人や団体・企業の皆様から助成金、災害ボランティア活動支援金及び広島市社会福祉協議会への見舞金など多大なご支援をいただきました。

項目	金額
広島県共同募金会災害準備金	27,000,000円
共同募金 災害ボランティア活動支援資金(ヤフー基金等)	6,762,500円
国際ロータリー第2710地区広島豪雨災害支援委員会	9,600,000円
大和証券福祉財団(災害ボランティア活動助成)	1,000,000円
全国社会福祉協議会(大規模災害支援活動基金)	5,000,000円
全国社会福祉協議会(地域福祉推進委員会・福祉救済制度による資金援助)	500,000円
災害ボランティア活動支援金(101件)	13,732,140円
広島市社会福祉協議会に対する見舞金(13件)	2,988,800円

平成26年8月20日の豪雨災害
広島市・区社会福祉協議会活動報告書

第3章

広島市災害ボランティア 本部の取り組み

災害ボランティア本部の役割

市災害ボランティア本部は、活動方針の決定のほか、区災害ボランティアセンターが開設されるまでのボランティアに対する情報発信、関係団体との調整等の初期対応を行いました。また、2つの区での災害ボランティアセンターが立ち上げ後は、総合調整業務を中心に行いました。

今回の災害は、政令市における局地的な土砂災害という特異な状況や、死者・行方不明者多数という甚大な被害をもたらした災害であったことから、マスコミ報道の影響もあり、当初は、ボランティア活動や支援物資の寄付などについての問い合わせへの対応に追われました。混乱が続く中、それぞれのスタッフの役割がはっきりしておらず、スタッフ間の情報共有も十分に行えない状況が続きましたが、その時々で、連絡調整会議のスタッフや社協の応援派遣職員、災害ボランティア活動支援プロジェクト会議の方々と一緒に考え、工夫しながら運営しました。

区災害ボランティアセンターが設置されてからは、センターが円滑に運営できるよう、資器材の調達等の後方支援や、運営方針等の検討、行政との連絡調整、NPOやNGOなどの約50の外部支援団体との情報共有などを行いました。

<本部スタッフの役割>

- ホームページやフェイスブックでの情報発信
(ボランティア募集人数や活動者数など)
- 資器材やボランティア運送車両等の調達
- 電話やメール等による問い合わせ対応
- ※ボランティア活動について(服装、持ち物、行き方)や支援物資の受け入れについてなど
- 外部支援団体との情報共有
- 団体ボランティアの受付と区災害ボランティアセンターとの活動調整
- 高速道路無料減免申請の事務手続き
- ボランティア活動保険加入事務手続き など

<本部スタッフ構成メンバー>

- 災害ボランティア活動連絡調整会議構成団体
市社協、ひろしまNPOセンター、広島市、地域のボランティア活動団体など
- 社協職員(全社協、広島県社協)
- 災害ボランティア活動支援プロジェクト会議
(全国組織)
- その他(地域のNPO等関係団体、一般ボランティア)

平成26年8月30日の写真



広島市社会福祉センター3階
(平成26年8月20日～8月31日)



安佐南区地域福祉センター5階
(平成26年9月1日～11月1日)



情報発信について

8月21日に市社協ホームページで災害ボランティア情報の掲載を開始し、23日に本部のフェイスブック、28日には本部の公式ホームページを立ち上げ、内容によって発信方法の使い分けを行いました。必要な情報や正確な情報を掲載することで、電話での問い合わせが落ち着いたものの、マスコミからの問い合わせは変わらず、定例の記者発表を行うことにしました。

しかし、提供できるデータや資料の準備が間に合わず、対応に苦慮したため、必要に応じて開催することに変更しました。また、被災者からのお礼の言葉やボランティアからの励ましの言葉をフェイスブックに掲載することによる反響は大きく、スタッフもそのコメントに励まされました。

HP写真



必要な情報を分かりやすく伝えるため、Q&Aを設けました。

フェイスブック写真



フェイスブックの特性を活かし、随時情報発信を行いました。

被災地での他団体の活動

発災直後から、被災地域で支援活動を行う関係機関や県内外のNPO/NGO(約50団体)が集まりました。この中には、東日本大震災等、様々な被災地で復旧・支援活動を行ってきたNPO団体も多く、これまでの経験を生かして土砂出し等のボランティア活動を行いました。これら多くの団体に対し、ひろしまNPOセンターが主催者(事務局)となり、市災害ボランティア本部、災害ボランティアセンターを含め、それらの支援者の関係構築や情報共有、連携促進を目的に「広島市土砂災害NPO/NGO支援連絡会議」を開催しました。

連絡会議を合計5回開催し、それぞれの団体がどのような活動をしているのかを情報共有し、何かあればお願いできる顔の見える関係性を作ることで、お互いの活動を補完し合い、円滑に被災者支援を行うことができるように努めました。



支援団体による連絡会議の様子

平成26年8月20日の豪雨災害
広島市・区社会福祉協議会活動報告書

第4章

安佐南区における 被災者支援活動

地域の特徴

〈安佐南区の概要(平成27年12月末現在)〉

人口:240,857人

世帯:100,911世帯

面積:117.24km²

○安佐南区は、広島市域の北西部に位置し、東西に18.7キロメートル、南北に10.8キロメートルの広がりを持ち、面積は117.24平方キロメートルです。

昭和40年代後半から昭和50年代にかけて山地部を中心に大規模な宅地開発が進むとともに人口が増大し、現在は広島市最大の人口を有しています。

このため、道路・下水道・公園などの都市基盤整備が急務となり、市の中心部から北西部に至る祇園新道、中筋沼田線や高速4号線の開通、中四国地方初めての新交通システム アストラムラインの運行など道路交通網が整備されました。下水道についても市街化区域内の汚水整備は概成しています。

また、広島広域公園のある沼田地区では、「住み」「働き」「学び」「憩う」といった複合的機能を備えた、新たな都市拠点である西風新都の整備が進んでいます。

一方、特産の広島菜の栽培などにみられるように、川内地区などは肥沃な農地が多く、市民への新鮮な野菜の供給地となっています。

都市化が進んだとはいえ、周辺には緑豊かな自然が多く残っており、こうした環境のなか大学や高校など多くの文教施設もあり、文教地区の一面も有しています。

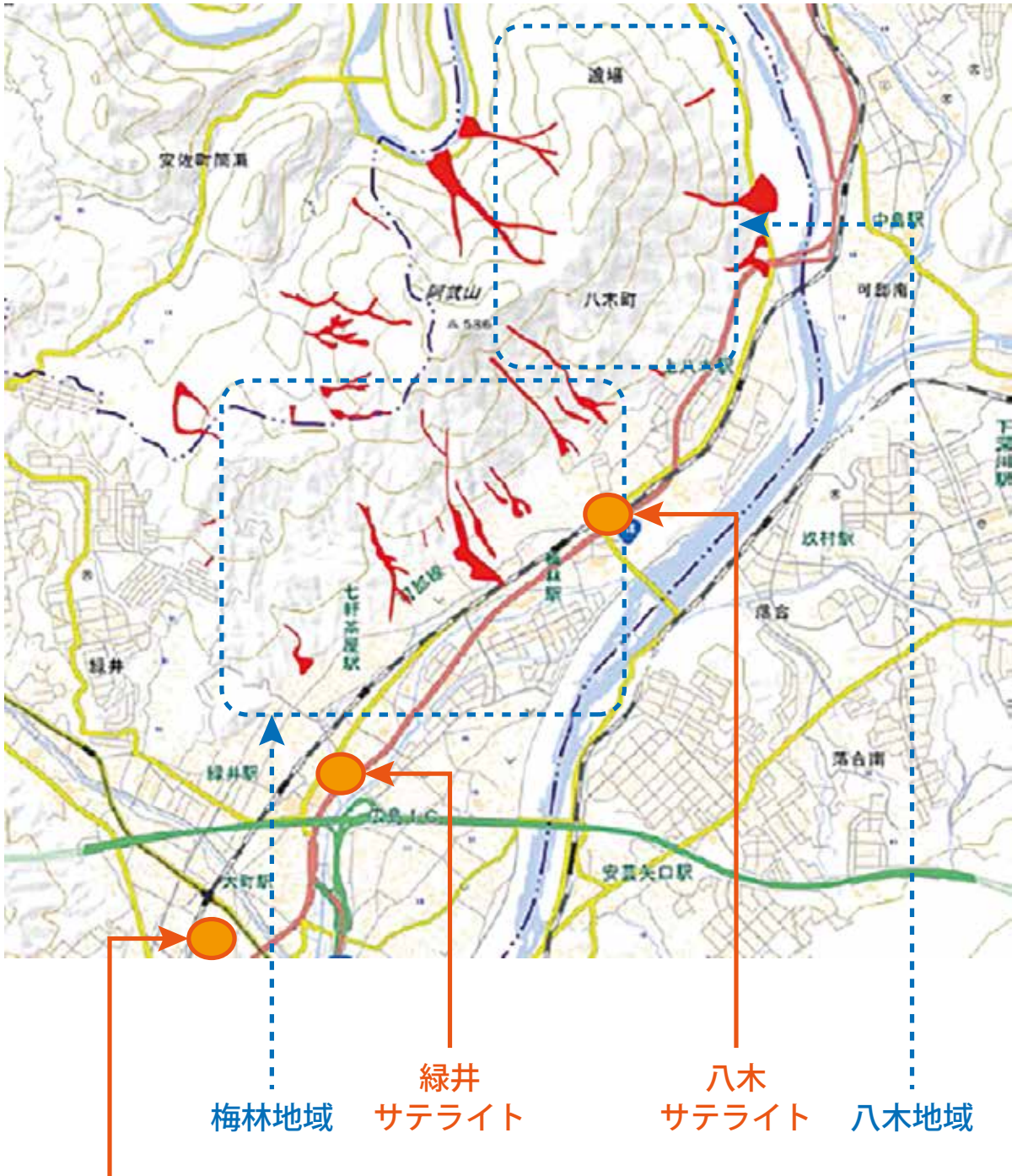


八木地域
(八木学区)

梅林地域
(梅林学区)

緑井地域
(緑井学区)

安佐南区の被害状況とボランティア活動拠点



安佐南区災害
ボランティアセンター
広島市災害ボランティア本部

出典:内閣府「平成26年8月20日に発生した広島土砂災害の概要」より

安佐南区災害ボランティアセンターの活動

○地域との連携と支援

発災直後から町内会・自治会、民生委員、地域住民と連携し、被災者支援活動を行いました。

～学区社協との連携～

八木学区では、八木小学校の避難所を運営しながら、被災者の一番近くで寄り添い、ボランティア活動のニーズの聞きとりを行われていました。被災者の方から寄せられた依頼は、区災害ボランティアセンターと共有し、ボランティア活動調整を行っていました。地域住民、被災された方はお互いに顔が見える関係だったからこそ、安心してボランティア活動依頼ができたと感じます。

～地域住民からの協力～

安佐南区は被害の大きい地区（八木地域、緑井地域）があることや市中心部から比較的近いことから、多くのボランティア希望の方が集中しました。地域の住民の方や民生委員の方が朝早くから横断歩道に立ち、ボランティアへの案内や駐車場の整備などを行っていただきました。そういった方々の支えがあり、大きな事故やケガはなく、被災者支援活動を行うことができました。

○サテライトの設置

区災害ボランティアセンターと被災地をつなぎ、ボランティア活動拠点となるサテライト（八木サテライト、緑井サテライト）を設置しました。

○安佐南区内の大学との連携

区災害ボランティアセンターの運営支援には、広島修道大学の職員の方、安田女子大学からは多くの学生の応援をいただきました。ボランティア活動者や被災された方からの電話対応のマニュアル作成や、大学教員だからこそその学生へのサポート体制など、社協だけではできない役割を担っていただきました。また、被災された方にとって、学生が電話で対応することで、ほっとして緊張がほぐれるなど、学生の大きな力を感じました。また、広島経済大学と連携し、山本・祇園地区などでの活動調整を担っていただきました。

○日ごろのつながりから生まれた支援

安佐南区社協に登録しているボランティア団体にも応援・協力していただきました。安佐南区ボランティアまつりの実行委員会のメンバーによって構成された、「あさみなみ元気づけ隊」です。地域資源を把握しているため、被災された方に安心感を与え、色々な形での支援を検討することができました。また、日頃からつながりのあるボランティアや地域の団体のみなさんの協力は、社協職員の大きな心の支えとなりました。

安佐南区災害ボランティアセンターの様子



スタッフミーティング



ボランティア集合場所



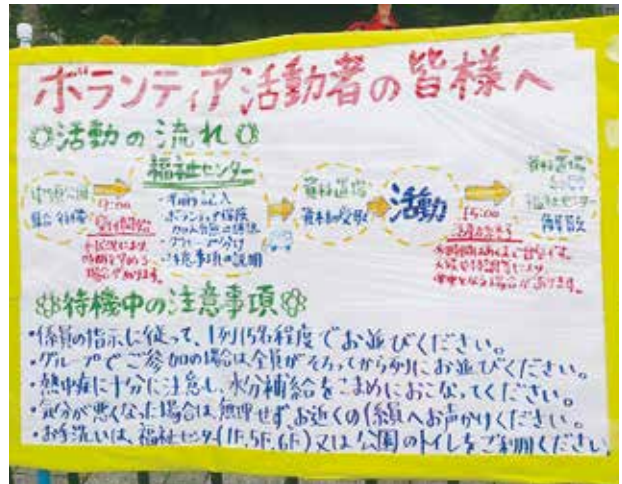
災害ボランティアセンターへ移動



ボランティア受付



オリエンテーション



ボランティア活動の流れ



様々な情報



ニーズ班

安佐南区復興連携センターの取り組み

個別支援

○相談対応

義援金の申請方法や、災害関連の困りごと相談、ボランティア活動物品提供の受付など被災された方からの相談や調整など行っています。

○ボランティア活動調整

被災された方の困りごとに基づき、引越された方の自宅の掃除や家具の移動の手伝いなどのボランティア活動の調整を行っています。



引越しの手伝い

○訪問活動

毎月発行する「ぼらせんかわら版」や地域の情報などを手に、被災地域に出向き、日々の困りごとや個別ニーズを聞き取るなどの個別訪問を行っています。

○広域避難者への支援

生活支援チームによりお米の提供や、ぼらせんかわら版の郵送を行っています。



訪問活動

地域支援

○地域のサロン活動への協力

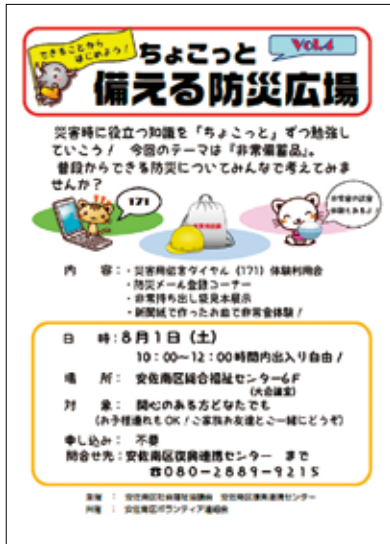
発災後途絶えていた地域サロン活動の再開に伴い、安佐南区復興連携センター職員も協力させていただいています。

サロン活動への参加を通じ、安佐南区復興連携センターの周知を行い、地域の方と顔の見える関係を作っています。

○防災教室

防災メールの登録、災害伝言ダイヤル体験等、日ごろから備えることのできる災害時に役立つ情報を勉強する防災教室を開催し、住民の方々の防災意識を高めています。

また、地域住民からの要望に応じて、出前講座を行っています。



ちよこっと備える防災講座広場の様子



○心の糸でつなげようプロジェクト

支援物資として全国からいただいたタオルを雑巾に加工し、被災地の小学校の新学期の準備に役立てていただこうと企画をしました。

2,000枚以上完成した雑巾を被災地の小学校3校にお届けしました。



ボランティアの方々にお手伝いいただきました！



できあがった雑巾

関係機関との連携

○安佐南区保健センターとの連携

- ・訪問活動を通じて、気がかりな世帯、被災された高齢者や生活保護世帯の情報交換を行っています。
- ・保健センター主催の8.20豪雨災害語り合いサロン(以下語り合いサロンという。)へのサポートを行っています。具体的には、個別訪問の際にチラシのお渡し、声かけなどを行っています。また、語り合いサロンが行われるときには積極的に参加しています。

○地域包括支援センターとの連携

被災された高齢者(担当ケース)の情報交換や情報提供を行っています。また、いきいきサロンの支援として、サロンのある日は積極的に出向き、地域の方との日ごろからのつながりを大切にしています。

○安佐南区元気づけ隊との連携

引越しなどの個別ニーズへの対応の協力や広報活動への協力をいただいています。

○つなぐプロジェクトへの協力

平成26年8月20日に発生した土砂災害を忘れないために、また、被災者支援活動を通じてつながった、住民、ボランティアグループ、NPO団体、学生みんなで開催しました。みんなでつどい、語り、祈り、つながりを強めることができるイベントとなりました。

○ボランティア活動手記集～2014年8月広島土砂災害～作成の協力

このボランティア活動手記集は、安佐南区災害ボランティアセンターのボランティアスタッフとして活動した有志が当時の思いや経験を共有するために作成されたものです。安佐南区復興連携センターも作成にあたり、原稿の協力をさせていただきました。

情報発信

- ・災害支援に関する情報や、知っておくと便利な防災知識、現在の安佐南区復興連携センターの活動報告などをお伝えする「ぼらせん・かわら版」の発行を行っています。
- ・安佐南区の現在の状況や取り組みを幅広く知っていただくためにフェイスブックの更新を随時行っています。



フェイスブック



かわら版

平成26年8月20日の豪雨災害
広島市・区社会福祉協議会活動報告書

第5章

安佐北区における 被災者支援活動

地域の特徴

〈安佐北区の概要(平成27年12月末現在)〉

人口:148,902人

世帯:65,125世帯

面積:353.33km²

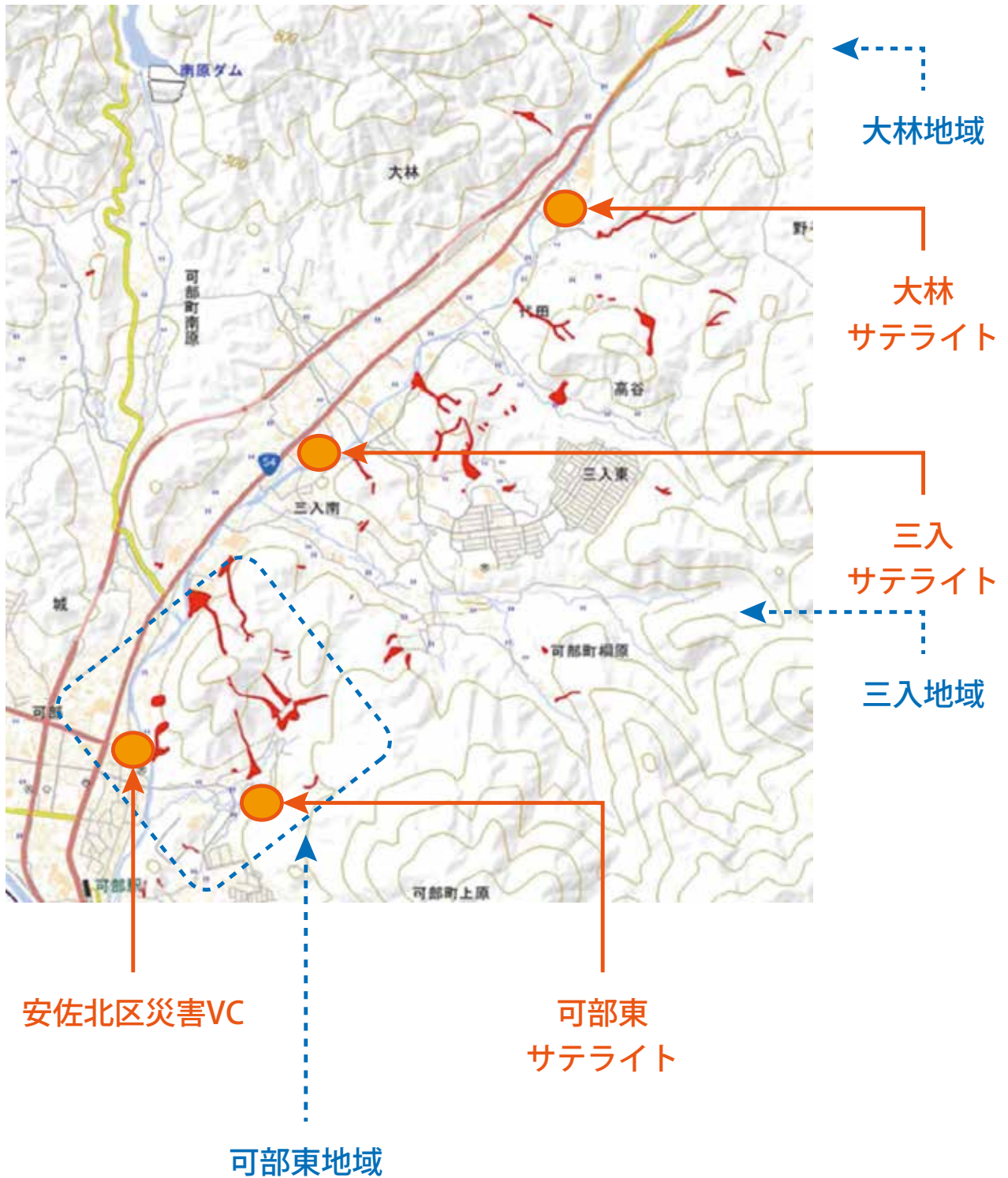
安佐北区は、市の最北部に位置し、安芸太田町、北広島町、安芸高田市、東広島市と接しています。東西に32.2km、南北に19.7kmの広がりを持ち、面積は8区の中で一番広く、市域の約4割を占めています。

広島市と合併した旧安佐郡北部の安佐町、可部町、高陽町、旧高田郡白木町からなり、山地が多く、低地は、太田川、三篠川沿いに形成され、この低地に隣接して丘陵地がある豊かな自然環境に恵まれた区です。

区内には太田川、根谷川、三篠川が流れており、交通インフラとしてはJR可部線や芸備線、県北や山陰とを結ぶ一般国道54号、191号、261号、県道広島三次線などが走り、丘陵部では数多くの住宅団地が開発されています。



安佐北区の被害状況とボランティア活動拠点



出典:内閣府「平成26年8月20日に発生した広島土砂災害の概要」より

安佐北区災害ボランティアセンターの活動

地域との連携・多団体からの支援(受援力)

発災直後から地域の自治会、自主防災会、民児協、地区社協等、地域の諸団体と連携し、被災者の支援活動を開始しました。支援にあたっては被災地の近くに、ボランティア活動拠点となるサテライト(大林サテライト、三入サテライト、可部東サテライト)を設置しました。

サテライト設置の成果として、

- ・地域の方に調整役になっていただけたことで、被災者のニーズ(要望)の調整が容易になった。
 - ・災害ボランティア活動が周知でき、地域の受け入れ態勢が整った。
 - ・ボランティア受付時間を短縮できた。(迅速に作業現場に入ってもらえるようになった。)
- 学生を始めとして、NPO、ボランティアグループ、地域の諸団体の支援をいただきました。社協だけではできないことも様々な団体の専門性をお借りすることで、被災者の支援を行うことができました。

被災者支援チームの活動

土砂撤去活動と平行して、被災者の戸別訪問を実施しました。保健師、医療職、地域包括支援センター・ケアマネ・民生委員児童委員・自治会・司法書士・弁護士等と共に、被災者を訪問し、必要に応じて専門機関につなぎ、支援を行いました。

安佐北区災害ボランティアセンターの様子



ボランティア集合



大林サテライト



ボランティアセンター案内図



ボランティア受付



ニーズ班



オリエンテーション



資材班(資器材の確認)



活動後の資器材の洗浄



スタッフミーティング



支援物資

安佐北区復興連携センターの取り組み

個別支援

○ボランティア活動調整

土砂撤去、居宅の掃除、家具の移動の手伝いなど、被災された方の依頼に基づきボランティア活動の調整を行っています。

地域の高校生も支援に協力してくれています。



○すまいるペリカン(訪問活動)

毎月発行する情報誌「すまいる通信」や「すまいるカフェ」のチラシなどを片手に、被災地域を歩き、困りごとを聞く訪問活動を行っています。

個別訪問を通して、孤立の防止、住民の方々の体調確認や新たなニーズの掘り起こしなど、細かな支援を行っています。

災害から1年7ヶ月が経過しましたが、まだまだ大変な状況の方がたくさんおられます。

今後も地域に根ざした活動を続けていきます。

これまでの、被災者支援活動を通じて、普段から顔の見える地域づくりの大切さを実感しています。

安佐北区外へ転居された方のお宅にも訪問しています。



地域支援

○すまいるカフェ(気軽に集える場所づくり)

すまいるカフェは、おおむね月1回開催されています。住民が気軽に集える場所を提供することで、地域コミュニティを再確認し、個別に抱えている困りごとを引き出すことで、地域全体で解決できる体制づくりにつなげています。



○2.11復興すまいるフェスタ

発災から半年の平成27年2月11日、災害を忘れないという想いと、被災者の方に笑顔届けたいという気持ちで開催しました。

災害支援で活躍した学生が中心となり、運営実施しました。



○ひまわり大作戦

豪雨災害の被害を受けた熊本県阿蘇と山口県萩市から届いたひまわりの種をまき、被災地域の方々と一緒に育てました。

収穫したひまわりの種は、区民まつり等の地域行事、ボランティアフェスタ等で区民の皆さんへ配布しました。



○お天気講座

災害時の天候の状況を学び、今後活かしていくため、可部公民館と共催で開催しました。(平成27年9月20日(日))

○安佐北区災害研修会

普段から顔のみえる関係づくりの大切さを今回の災害から学びました。支援いただいた地域の皆さんと一緒に開催しました。(平成28年2月21日)

関係機関との連携

- 地域で行われる避難訓練に参加しています。
- 司法書士相談会への協力をしています。



避難訓練の様子



復興連携センターの活動紹介

情報発信

「すまいる通信」の発行を通じて、日々役立つ情報や、災害支援に関する最新の情報、現在の安佐北区復興連携センターすまいるの取り組みを伝えています。

安佐北区復興連携センターすまいるのフェイスブックの更新により、たくさんの人に現在の安佐北区の状況や取り組み等知っていただけるように広報しています。



すまいる通信

紫陽花の雨が純情に色づき、夏の始まりを感じさせます。地域を歩きますと、雨の影響を心配した声が多く聞こえてきます。不安は抱いながらも、これからの梅雨の季節にかけた「備え」を今一度確認し、冷静かつ的確に対応していきましょう。

避難情報についての基礎知識

これまでに複数の避難準備情報が広島市より発表されました。県中がな費用や、異常気象のため発生しないまでで台風の影響などもあり、落ち度がない日々を過ごされた方も多々いたと思います。今回は、避難情報の理解を深めるための仕組みなどをお知らせします。

一災害・防災情報に関する情報のしくみ

避難準備とは?
 * 災害により被害はありませんが、みなさんへは、広島市の避難指示計画のなかで定められています。(参考:「広島市地域防災計画」P132) 避難準備情報は、みなさんの注意を喚起すること、それぞれの立場や状況に応じて避難準備の確認をすること、みなさんが自ら判断して避難することになります。また、家族や、隣近所、防災などの避難するに時間を必要とする方々に対して、早めの避難行動の開始を促すものです。

避難勧告とは?
 災害の発生する恐れがあり、避難を促す時。

避難指示とは?
 上記より状況が悪化し、避難すべき時期が近づいたとき又は災害が発生し、被害に被害者があるとき。

平成26年8月20日の豪雨災害
広島市・区社会福祉協議会活動報告書

第6章

広島市豪雨災害での活動をふりかえって
～支援に携わった皆様からの声～

安佐南区での支援に携わった皆様からの声

避難所運営支援とボランティア活動調整を行って

八木学区社会福祉協議会 会長 松本 勝 さん
 地域福祉推進委員 山田 仁恵 さん
 事務局 萩 みゆき さん

八木小学校での避難所運営

8月20日午前4時35分ごろ、自主防災会会長によって八木小学校の鍵が開けられ、避難所を開設しました。午前7時ごろから徐々に避難者が来られ、午前9時には113名もの人が避難されていました。

避難所では、小学校の教職員の他、自主防災会や町内会の役員、民生委員などがお互いに協力しあって運営していました。また、私たちは、八木学区社協のボランティアバンクで地区ボランティアコーディネーターとして日ごろから活動していたため、すぐに地域で動くことができる人に連絡をとり、避難所運営スタッフの体制を整え、主に避難している人への食糧品の受け渡しや避難場所となる教室への案内、支援物資の仕分けなどを行いました。

避難所では、発災した8月20日から9月15日までの20日間毎日休みなく、午前7時から午後10時30分までの15時間、支援を行いました。それほど長時間活動していたという自覚はなく、あっという間に時間が過ぎていきました。疲れを感じる時間もなく、避難してきた方の力になれればという思いでずっと支援に携わりました。

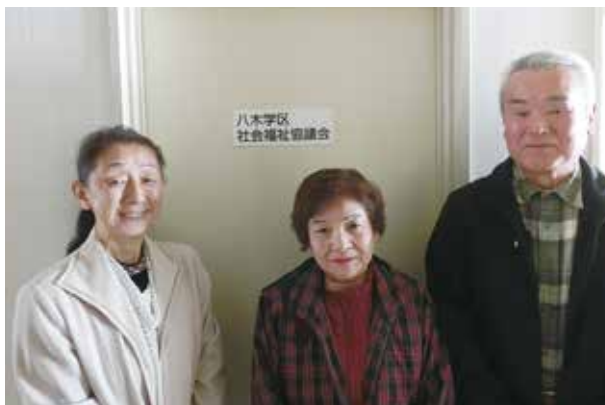
八木小学校でのボランティア受付～安佐南区災害ボランティアセンターとの連携～

「八木学区でのボランティア窓口の立ち上げが必要ではないか？」八木小学校でボランティア受付窓口を設けるきっかけとなったのが、毎日顔を合わせる地域の団体の方からの一言でした。その言葉を受け、8月23日にボランティア受付窓口を開始、安佐南区災害ボランティアセンターと連携し、八木学区内で被災した方からの依頼を受け、ボランティアの送り出しを行いました。

安佐南区災害ボランティアセンターには、活動日の前日に被災した方の要望件数と必要なボランティアの人数を伝えて調整を行いました。活動の当日には、災害ボランティアセンターで受け付けたボランティアを活動現場まで案内し、活動終了後には報告の聞き取りを丁寧に行いました。

日頃から地域で活動し、地域のことをよく知っている私たちが、ボランティアの受付窓口を担ったことで、被災した方もボランティア活動の依頼をしやすかったのではないかと感じています。また、顔なじみだからこそ、疲労がたまっていた被災者からは、「明日のボランティア活動は休みにしてほしい」などの本音も聞くことができ、無理のない範囲での調整が行えたのではないかと感じています。

いつも連絡を取り合い、つながりのあった地区社協と地域、そして外部からの支援とがうまく連携できたからこそ、地域の復興に向かうことができたのではないかと思います。



右から松本さん、山田さん、萩さん

安佐南区災害ボランティアセンターニーズ班での活動を振り返って

広島修道大学 ひろしま未来協創センター 平岡 健 さん
ひろしま未来協創センター 中寿賀 綾 さん

安佐南区災害ボランティアセンター運営支援に携わるまで

広島市内でこれまでに経験したことがない大きな災害が発生したことで、すぐに学内で何ができるかを話し合いました。そして、平成25年に安芸太田町社協主催の「町被災者サポートボランティアセンター設置訓練」に学生ボランティアグループ「HUG-YOU」と共に参加した経験、その時に得た知識が生かせると思いました。

また、大学職員が災害ボランティアセンター運営に関わり、被害状況や運営の状況を学生に伝えたいという思いから、安佐南区社協と協議し、8月26日から毎日2名ずつ、災害ボランティアセンターの運営支援に大学職員を派遣することが決まりました。

安佐南区災害ボランティアセンターでの運営支援を通して感じたこと

支援に入った当初は、マッチング班やニーズ班など、毎日日替わりで業務内容が異なったため、引き継ぎや情報共有の難しさを感じていました。しばらくしてニーズ班を本学の職員が継続的に担当することになり、業務改善を少しずつ行いました。日々状況が変わる中、できる範囲でニーズ班のマニュアルを作成しました。

また、災害ボランティアセンター運営の状況を知っている人が継続的に支援に入ること、新しく来た人にも分かりやすく状況報告や業務内容を伝えることができたからです。

ニーズ班では、主にボランティア活動をしたい人やボランティアに来てほしい被災者の電話の受付をしました。

ニーズ班には、安田女子大学の学生など、初めて支援に入る学生もたくさんいました。私たちは大学職員であるため、日々学生と向き合い、関わっているからこそ出来ることがあるのではないかと考えながら行動していました。例えば、電話対応マニュアルを作成したり、問い合わせが多かった災害ボランティアセンターまでの道案内図を作成するなど、ニーズ班に携わる学生が活動しやすいように工夫し体制を整えました。

学生はイレギュラーなことが起きると対応に困り、そして不安になります。それが電話の向こう側の被災者やボランティアにも伝わってしまい、不安にさせてしまうこともあります。そのため、サポートできる体制を作っておくことにより、学生の安心感につながったのではないかと思います。

学生だからできること、反対に大人にしかできないことを理解し、いつでも相談できる、頼られるような雰囲気づくりを心がけていました。

また、社会福祉士など専門職のボランティアスタッフや社協職員の電話対応の仕方、相手を思いやる声かけなど、相談援助のスキルを自分自身に取り入れることも出来ました。

この経験を通して、ボランティア活動をしたいと思っている学生の話をじっくりと聞く時間を設けるなど、より相談者の目線に立った対応ができるようになりました。そして、職場では明るい雰囲気づくりや挨拶を心がけ、毎日実践しています。



右から平岡さん、中寿賀さん

安佐北区での支援に携わった皆様からの声

日ごろの「近助」の大切さ～災害を経験して感じたこと～

大林地区連合自治会 会長 坊 聡彦 さん
安佐北区大林地区自主防災会連合会 会長 山本 雅範 さん

地域力！

私たちが住んでいる安佐北区大林地区では、地域の恒例行事の盆踊りを毎年開催していましたが、踊る人のほとんどが高齢の方ばかりでした。「地域を元気にしたい!」「若い世代からシニア世代まで色々な世代に参加してほしい!」という思いから、平成25年に、地域に昔から伝わる、軽武装で刀を持って踊る『熊谷踊り』を復活させました。そのことがきっかけとなり、地域に住んでいる人が熊谷踊りに参加して、一緒に楽しむことを体感することができました。そして、地域に住む人同士が顔見知りになり、互いの行事に協力しあえる関係を築くことができ、地域の住民同士がつながっていたことが、今回の災害時にも活かされました。

災害発生時は、すぐに被害の状況、誰が被災しているのかなど、各自治会長への住民安否確認の連絡を行い、被災状況を把握することができました。また、日ごろのつながりを活かし、避難所での炊き出しなどで協力しあいうことができました。

社協との関わり！

発災当初、この状況を何とかするためには、自分たちで支援してくしかない、解決していくしかないと思っていました。安佐北区災害ボランティアセンターの存在を教えてくれて、つないでくれたのは、ボランティア活動者の前原土武さんでした。

大林地区としては、まず、地域の被災状況を把握し、どんな支援が必要とされているか、ニーズの把握を行いました。また、災害ボランティアセンターから送り出されたボランティアを活動場所に案内したり、活動終了後にボランティアから報告を受けたりしました。また、次の日に必要なボランティアの人数や資器材の準備など、安佐北区災害ボランティアセンターと頻りに連絡をとりながら調整し、ボランティア活動者と地域でボランティアを求めている被災者をつなぐ役割を担いました。

この災害を経験し、安佐北区社協とともに被災された方を支援できたからこそ、今では何かあれば気軽に相談できる関係になりました。



右から山本さん、坊さん

活動を通して生まれた地域のみなさんとのつながり

学生ボランティア団体OPERATIONつながり災害復興事業部 部長 河原 真央 さん
メンバー 富吉 亘哉 さん

学生ボランティア団体 OPERATION つながりについて

当団体が発足したきっかけについて、東日本大震災が発生した後、広島大学の中で東北のために何かしたいという思いを持った学生が集まって当団体が発足しました。その後、震災から約半年後にメンバーを中心に宮城県を訪れ、仮設住宅で交流会を開催したりお掃除のボランティアをしたりしました。この活動を現在でも年に2回のペースで継続して行っています。

災害ボランティアセンターの運営支援に関わるきっかけ

発災直後から、団体としては災害支援を行うことを決めていたため、団体内で活動できる人を集めるなどの準備を進めていました。そして、安佐北区災害ボランティアセンターでの支援に関わるきっかけとなったのは、発災前から防災講座の開催を通じて関わりのあったNPO団体の方からの紹介でした。

災害ボランティアセンター運営に携わり感じた、「仲間」そして、学生の「強み」

私たちは、主に3つのサテライト(大林、三入、可部東)と災害ボランティアセンター本部でニーズ班やマッチング班など幅広く携わりました。

その中で、職員やスタッフのみなさんが、私たちを「学生ボランティア」としてではなく、「仲間」、「スタッフ」として温かく受け入れ、運営にも学生の力が発揮できるように調整してくれました。自治会長さんなどが集まるミーティングの場にも参加させていただきましたが、「自分たちがいてもよいのか?」という不安もありました。それでも、職員やスタッフのみなさんから信頼され、頼りにされたことが嬉しく、「一生懸命頑張ろう!」という気持ちが湧いてきて、安佐北区という地域がとても大切に思えてきました。

また、私たちは、すまいるペリカン(訪問活動)に携わりました。地域住民でもなく、大人でもなく子どもでもない、学生だったからこそ、ぽろっと話せる本音や相談も多く、そのつづやきを大切にしたいと思いました。

復興連携センターに移行してからも、団体としてのボランティア活動を継続し、冬には土砂が残っていた田んぼの土砂出しの活動を、平成27年1月から4月までの期間支援として行いました。

その活動を通して生まれた地域のみなさんとのつながりを大切にしたい、活動をここで終わらせるのはもったいない、という思いから、『感謝祭』を開催し、地域の方からの1か月か2か月にでも1回でもよいから集まりたいという声を受け、クリスマス会の企画やカフェの開催など、今でもつながりを大切に活動が続けています。



支援者として

被災地に寄り添った支援活動を通じて

NGO結～yui～ 代表 前原 土武 さん

平成23年3月11日の東日本大震災が発生したあの日、私は高校生300人を連れてスキー合宿の添乗に出ていました。テレビから流れる映像を目にして居ても立ってもおられず、東京に戻ったのち、準備を整え東北に向かったことがきっかけで、気がつけば5年、各地で発生した災害(竜巻、水害、土砂崩れ、地震など)に出向き、支援活動を行うようになりました。

平成26年8月20日の早朝、広島で大規模な土砂災害により、たくさんの死者と行方不明者が出たことを耳にし、これまで各地で関わった土砂災害での支援活動の経験から、これから長い支援活動が必要になると感じ、広島へ行くことを決めました。

8月20日に四国を出発し、夕方には八木小学校の裏(八木3丁目)に到着、すぐに被災現場を確認し、避難所の様子を見させていただきました。その足で、市社協を経由して安佐南区社協へ向かい、翌日から安佐北区社協に入って現場調査を行いました。支援内容やサテライトを設置できそうな場所などを確認したのち、災害ボランティアセンターの立ち上げのサポートを行いました。大林、三入地区のサテライトについても、地域の方と話し合い、立ち上げのお手伝いをしました。

災害ボランティアセンター運営のサポートをしながら、日中は被災地域へ出向き、地域で困っている方、自治会の方々と話しながら、現地で得た情報を災害ボランティアセンターに届ける役割を担いました。また災害ボランティアセンターでの対応が難しい、専門的な技術が必要なケースの依頼について調整を行い、そのケースに対応できる支援者へつなぐ役割を担いました。

現場に近い安佐南区、安佐北区の災害ボランティアセンターは、各センターで運営方法についてより良い方法を判断し、支援活動を展開することができていたと思います。

発災から一年半が経ち、復旧作業が進み、山や道、生活環境が発災前のように戻り始めている中、発災直後と違い見えにくくなってきている要支援者の方々があります。その方々を含め、全ての方が一日も早く元のような生活に戻れることを願っています。



平成26年8月20日の豪雨災害
広島市・区社会福祉協議会活動報告書

第7章

被災者支援活動への対応から見えた
課題と今後の取り組み

災害ボランティアによる被災者支援活動に関する課題と今後の取り組み

今後起こりうる災害時に迅速に対応するため、これまでの振り返りや課題検討を踏まえ、現段階で整理した課題について、取り組みを進めています。

1. 地縁組織の助け合いとニーズ把握

まずは被災状況の把握が必要でしたが、マスコミ報道やSNSの影響などにより、市社協にボランティア活動への問い合わせが早くから殺到し、市・区社協職員はまずそれらに対応する必要がありました。一方で、区災害ボランティアセンターの立ち上げ準備を進める中、災害対応経験が乏しく、日頃の備えもほとんどできていなかったため、全てがゼロからの調整でした。その対応に追われたことにより、地域に出向いてニーズを集めることも十分に行えませんでした。また、平時から地区社協をはじめ、地域の関係団体や行政等関係機関への災害時に設置する区災害ボランティアセンターの周知が不十分だったため、地域からの情報が区災害ボランティアセンターに届きにくく、被災地域の状況やボランティアニーズを把握することに時間を要しました。

しかし、家族、親せき、知人、企業など日頃の関係性による助け合いのほか、自主防災会、町内会・自治会などによる助け合いが行われた地域も多くありました。その拠点が区災害ボランティアセンターのサテライト機能を担い、区災害ボランティアセンターでの支援活動と連携することで運営が効率的になったことは、復旧作業が進んだ要因のひとつとも言えます。

今後の取り組み

●災害時に連携が必要な地域の関係団体、NPO団体等との関係性づくり

- ・区災害ボランティアセンター設置・運営マニュアル<標準例>の見直し
(平成28年3月完成予定)
- ・地域団体(町内会・自治会、自主防災会など)やNPO団体と協働で各区版の災害ボランティアセンター設置・運営マニュアル作成及び災害ボランティアセンター開設・運営シミュレーションの実施

●災害ボランティアセンターの周知及び災害ボランティア活動の啓発

- ・地区社協や地域の関係団体の会議や研修会などでの周知
- ・防災訓練や防災フェアなどのイベント時での啓発
(災害ボランティアセンター・災害ボランティア活動の紹介パネル展示、災害ボランティアハンドブック・チラシの配布)
- ・ホームページ(災害ボランティア活動専用ページ)や広報紙による啓発

2. 行政との連携

区災害ボランティアセンターの設置候補場所は、広島市地域防災計画には区地域福祉センターと明記されていましたが、平時から区役所と区社協による災害ボランティアセンターの設置場所の確認や情報共有が十分行えていなかったため、スムーズに開設できませんでした。また、市災害ボランティア本部・区災害ボランティアセンターと市・区災害対策本部との連携が不十分だったため、被災地域の情報が届きにくく、ボランティア活動の送り出しが円滑に行えませんでした。

今後の取り組み

●区災害対策本部と区災害ボランティアセンターの連携強化

- ➡➡ ・区役所と区社協による協議
(災害ボランティアセンター開設候補場所の確認と代替場所の調整、災害時の情報共有、資材や物資提供など)
- ・区役所が主催する防災訓練への区社協職員の参加

3.運営について(指揮命令系統・運営スタッフ・情報共有)

今回の被災者支援活動において、市社協災害対策本部、市災害ボランティア本部、区災害ボランティアセンター、連絡調整会議など、さまざまな形態の組織が運営に関わることにより、指揮命令系統及び責任の所在があいまいになり、また、適切な指示を出すというラインとしての役割を担う職員の不足から、情報の共有や伝達が円滑に行えないことも多々ありました。また、災害ボランティアセンターは、多様な団体との協働により運営が成り立ちますが、社協組織としても、運営者として指揮命令のラインを担える職員の育成、関係機関・団体との役割分担や情報共有のあり方の検討を行います。

今後の取り組み

●災害時の組織体制の見直し

- ・災害時における職員体制、事業の実施体制の明確化
- ・市社協と区社協の役割の明確化(指揮命令系統の整理)
- ・被災区以外の区社協の応援体制の明確化
- ➡➡ 緊急時マニュアルの改正
危機管理カードの作成(平成27年6月作成済)
区災害ボランティアセンター運営時の職員役割分担表作成(毎年度更新)

●運営者としての職員の育成

(活動内容を理解し責任を持って、自ら判断して動ける人材の育成)

- ➡➡ 職員研修の見直し、全社協主催災害ボランティアセンター運営者研修等への参加

●関係団体との連携

- ➡➡ 連絡調整会議による市災害ボランティア本部運営マニュアルの改訂
(平成27年8月暫定版作成済)

平成26年8月20日の豪雨災害
広島市・区社会福祉協議会活動報告書

第8章

資料

その後…

慰霊碑・慰霊祭

平成27年8月20日(木) ～広島豪雨災害から1年～

平成26年8月20日の豪雨災害から1年を迎えるに当たり、災害により犠牲になられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被害にあった地域、あわれた方が一日も早い復興を願って、各地で追悼式が行われました。

広島豪雨災害犠牲者追悼式 広島県・広島市共催



8. 20広島豪雨災害～あれから1年慰霊と感謝の会～(安佐南区元気づけ隊HPより)



安佐南区佐東公民館で、「慰霊と感謝の会」が行われました。

佐東公民館へ一時避難された方や公民館でサポートに携わった方が集い、現況と当時を振り返られました。

慰霊と感謝の集いでは、3名の方がスピーチされ、ボランティアに対する感謝の言葉もありました。

新建自治会による慰霊式の開催(すまいる通信号外より)

2ヶ所に設けられた献花台。8月20日午前9時から行われた慰霊式には、150人以上の方々が訪れ、災害で犠牲になられた方のご冥福をお祈りされました。



新建自治会献花式

ミラクル・すまいるカフェの開催(すまいる通信号より)

1年目の節目に新建集会所で行なわれたミラクル・すまいるカフェ。カフェの入り口には、焼香台と千羽鶴が置いてありました。

献花式でお祈りを終えた地域のみなさんがたくさん訪れていました。

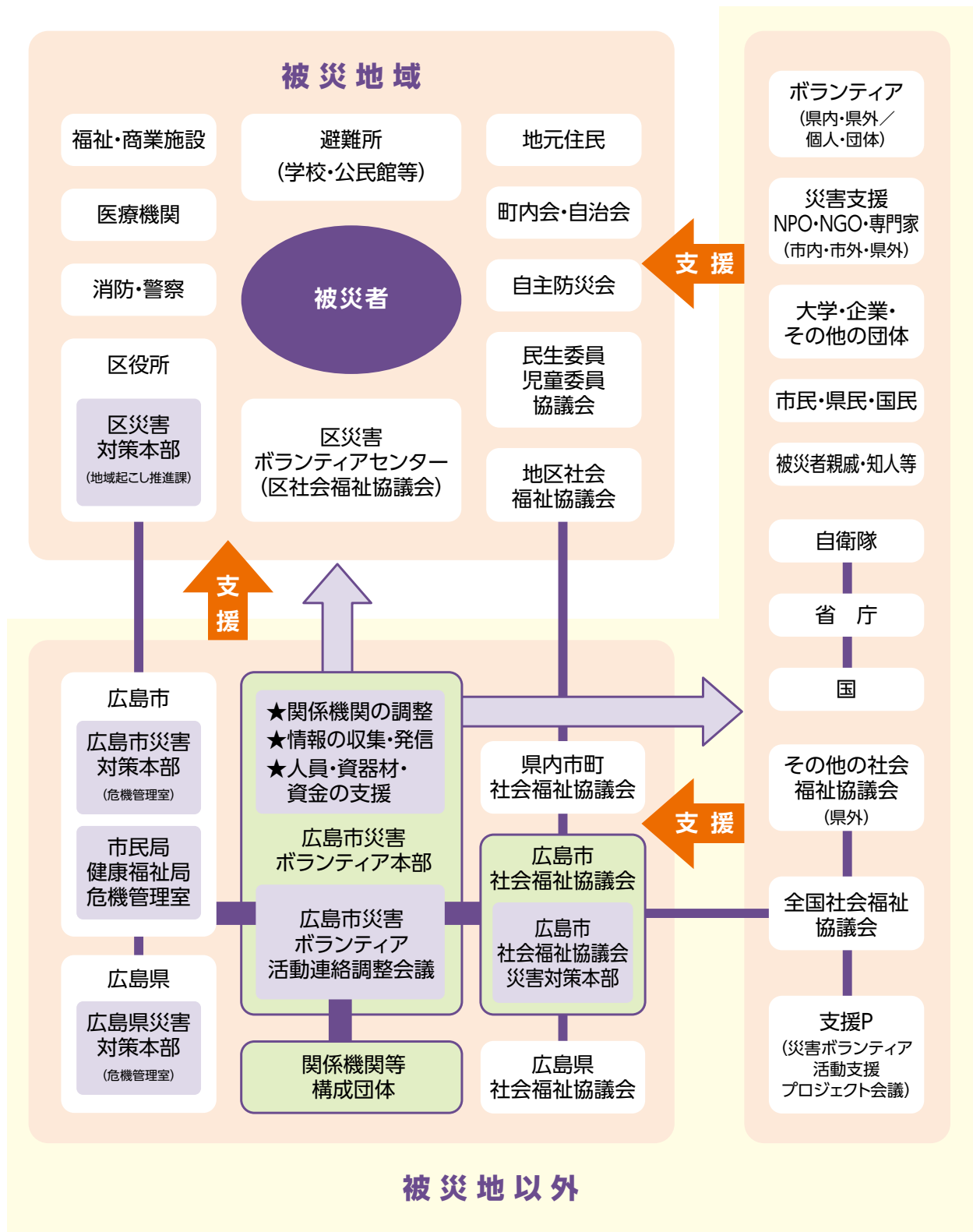


すまいるカフェ献花式



すまいるカフェ新建自治会前

関係図



広島県内の過去の災害の記録

〈広島県内における主な土砂災害〉

広島県内において、過去に被害をおよぼした主な土砂災害は以下のとおりです。

災害名	被災地域	被害の状況
枕崎台風 (昭和20年9月)	呉市、 廿日市市	呉市内では、急傾斜地の至るところが崩壊し、土石流が頻発した。 廿日市市では、陸軍病院が土石流の直撃を受け、病棟が崩壊した。 総死者数は、2,012名。
ルース台風 (昭和26年10月)	大竹市、 佐伯区	広島県内では各地で堤防の決壊、溢流があった。また強風を伴っていたため、高潮による被害も発生した。 総死者数は、166名
豪雨 (昭和42年7月)	呉市	台風7号の影響を受けて大雨となった。この豪雨により、山崩れ、崖崩れ、土石流、河川の決壊、氾濫が発生した。 生き埋め171名、死者88名の災害となった。
豪雨 (昭和47年7月)	三次市	記録的な大雨により、県北部を中心として、県下全域に河川の氾濫、崖崩れ等が発生した。 住家の被害19,208棟を始めとして、農林地・公共施設棟にも大きな被害が出た。 総死者数は、39名
豪雨 (昭和63年6月)	加計町	集中豪雨による土石流災害。 主な被災地は、加計町、戸河内町、筒賀村の一部。 総死者数は、15名
台風19号 (平成3年9月)	県内の沿岸・ 島しょ部	強風による破損や高潮による浸水で、全壊50棟、半壊442棟、一部損壊22,661棟、床上浸水3,005棟、床下浸水9,162棟にも及んだ。 6名死亡、49名が重軽傷
台風5号 (平成5年7月)	戸河内町、 筒賀村	家屋全壊1戸他
豪雨 (平成11年6月)	広島市、呉市	土石流等災害で139箇所、崖崩れ災害で186箇所にも及び、死者31名、行方不明者1名、家屋全壊154戸等、昭和63年県北西部豪雨災害を大きく上回る、近年にない大規模な土砂災害となった。
平成13年 芸予地震 (平成13年3月)	呉市	マグニチュード6.7、震度6弱の地震が発生した。 人的被害は、死者1名、重傷者33名。 家屋被害は、全壊40戸、半壊242戸、一部損壊28,240戸に達した。
台風14号 (平成17年9月)	廿日市市	土石流13渓流、がけ崩れ7箇所、地すべり1箇所の土砂災害が発生した。 家屋全壊4戸、一部損壊44戸の被害。
台風13号 (平成18年9月)	広島市、 北広島町、 安芸高田市他	大雨が集中した芸北地方を中心に、死者1名、行方不明者1名、家屋全壊4戸、半壊6戸の被害が発生した
7月豪雨災害 (平成22年7月)	庄原市	局地的な集中豪雨(ゲリラ豪雨による災害) 人的被害は、死者1名、重傷者1名 物的被害は、全壊14戸、半壊14戸、床上浸水1戸、床下浸水36戸、一部損壊10戸。

関連記事(新聞)

平成26年8月22日
中国新聞



被災した男性布からニースを開き取る
安佐北区社協のボランティアスタッフ

ボランティア本部設置 市社福協

土砂災害を受け、広 しい次第被災者から 島市社会福祉協議会 の支援依頼に応じる。 中区の市社会福祉 センター内に災害ボ ランティア本部を設置 した。21日、安佐南、安 佐北に災害ボランティア センターを開設す る準備を開始。態勢が 整い、必要なサポートの 内容を聞き取った。 当面の課題は土砂や がれきの撤去。可部東 区の高木武志さん(70)は 「土砂が自宅を押し込 んで、再び雨が降ると 崩れるのではと不安。 早急に取り除きたい」と訴えていた。

また、救助活動など で立ち入りが制限され ている区域が依然とし て多い上、即予報もあ る。このため西區とも さらなる災害の恐れが なくなるのを待つ。同 センターを開設する。 ボランティア参加を 希望する人からの問い合わせは殺到してお り、市社協は態勢を整 い次第、ホームページ を安佐南、安佐北区社 協のサイトに流した。

一方、県社協は同 日、南区の県社会福祉 会館内に県被災者生活 サポートボランティア センターを設置。広島

市社協の後方支援が主 な業務。同日、他の市 町社協職員を含む7人 を安佐南、安佐北区社 協などに派遣した。

今後は中国地方の他 県の県社協にも協力を 求め、手厚くサポート する構え。HPでは随 時、ボランティアや義 援金の募集情報を発信 する。

平成26年8月23日 中国新聞(夕刊)

ボランティア続々集う



広島土砂災害 初の週末復旧願い シヤベル手に被災地へ

「必ず助ける」現場に響く



安佐南 安佐北に ボランティア拠点 市社福協

土砂災害を受け、広島市 社会福祉協議会は21日、安 佐南区和安佐北に災害ボ ランティアセンターを開設 した。被災者の支援依頼を 受け、ボランティアを派遣 する拠点。23日から活動す る。

安佐南区地域福祉センタ ーと安佐北区総合福祉セン ターにそれぞれ開設した。 午前9時〜午後5時に、土 砂やがれきの片付け、自宅 の清掃などの要請を電話が フォックスで受け付け、スタ ッフを無料で向かわせる。

災害現場では依然として 立ち入り制限が続いている ことから、ボランティアの 募集は新聞、広域圏内在住 者に限定する。

連絡先は次の通り。

【安佐南区】 依頼番0800 (26331) 38422(参加 加番080(26331)3 142、番0800(263 1)32427(依頼・参加 共通)フォックス0822(83 1)5013【安佐北区】 依頼番0800(26331) 38422(参加番080 (26331)42427(依 頼・参加共通)フォックス 2814)18095。

平成26年8月23日 中国新聞

安佐北区の大林・三入小学校区

自主防災会復旧に力

家屋損壊や道路の崩壊 作業支援へ詳細情報

土砂災害の被害に遭った広島市安佐北区の大林、三入の両小学校区の自主防災会が、復旧に向けて力を発揮している。地域の被災状況を詳しく把握し、ボランティアの効率的な配置につなげている。土砂崩れやこれまでの防災活動を生かし、一日も早い復旧を目指す。

(中川雅晴、畑山尚史)

同連合会が被災者対策本部にも被災状況を伝え、災害対策本部は八小学校区でまとめた被災報告は他にない。状況が簡単く把握でき、復旧の手助けになる」とする。

被災前、同連合会は浸水時の避難マップを独自作り、住民に同小までの経路を確認してもらった。取り組みを進めてきた。山本雅典会長(64)は「行政頼みではなく、地域の力を発揮したい」と話している。

三入学区自主防災会連合会も役員たちが1軒ずつ被害状況を確認し、床・海水や床下浸水などを戸別に色分けした縦約1メートル、横約2・5メートルの地図をの谷が土砂崩れ、家・倉庫に大量の土砂流入や土砂がくまなく入るなど、通じて集まったボランティアを受け付ける区社会福祉協議会の災害ボランティアセンターと連携し、より「必要な支援が必要」とも留意し、力を込め復旧を促す。

大林学区自主防災会連合会は、災害が発生した20日から役員たちが地域をくまなく回り、家屋損壊や道路崩壊など約200件の被害を確認した。一覧表を作成し、避難所の大林小に設けた対策本部に張り出していき、

「一覧表は戸別に、裏の谷が土砂崩れ、家・倉庫に大量の土砂流入や土砂がくまなく入るなど、通じて集まったボランティアを受け付ける区社会福祉協議会の災害ボランティアセンターと連携し、より「必要な支援が必要」とも留意し、力を込め復旧を促す。

平成26年8月28日 中国新聞

大学生 復旧後押し

広島土砂災害

夏休み「力になる」ボランティアで奮闘



民家の庭に押し寄せた土砂を取り除く「つながり」のメンバー(撮影・井上尚史)

「あつち」に土砂が24日から毎日降り続ける。くまなく。28日、広島土砂の除去や復旧ボランティアの活動が本格化する。広島市安佐北区内の大林・三入の両小学校区に、土砂災害の被害に遭った。ボランティアの効率的な配置につなげている。土砂崩れやこれまでの防災活動を生かし、一日も早い復旧を目指す。

同連合会が被災者対策本部にも被災状況を伝え、災害対策本部は八小学校区でまとめた被災報告は他にない。状況が簡単く把握でき、復旧の手助けになる」とする。

被災前、同連合会は浸水時の避難マップを独自作り、住民に同小までの経路を確認してもらった。取り組みを進めてきた。山本雅典会長(64)は「行政頼みではなく、地域の力を発揮したい」と話している。

三入学区自主防災会連合会も役員たちが1軒ずつ被害状況を確認し、床・海水や床下浸水などを戸別に色分けした縦約1メートル、横約2・5メートルの地図をの谷が土砂崩れ、家・倉庫に大量の土砂流入や土砂がくまなく入るなど、通じて集まったボランティアを受け付ける区社会福祉協議会の災害ボランティアセンターと連携し、より「必要な支援が必要」とも留意し、力を込め復旧を促す。

「お弁当の多い地区なので、若い学生が来るだけで作業が活気づく。アルバイトを休んで来る人もいる。聞き、本道にありたい。自宅前の道路が土砂やがれきで埋まった安佐南区糠井丁目の農業青年会さんには歓迎。連日、支援で「いつか元の街に戻れる」と願っているように感じた」と前を導いた。

平成26年8月29日 中国新聞

被災者宅を訪ね、
悩み事などを聞く
看護師たち

看護師ら安佐北区の被災者ケア



悩み事何でも話して

広島市の土砂災害で被害の大きかった安佐北区の被災地を看護師たちがボランティアで訪問し、被災者の健康チェックや心のケアをしている。悩み事などを話してもらい、ストレスを和らげてもらうのが狙い。

(中川雅晴)

血圧や脈拍の測定も

「体は大丈夫ですか」「心配事はないですか」。県内外の看護師や社会福祉士たちが2人1組になって被災者を訪ね、質問する。同区可部東、三入、大林地区などで先月31日から、毎日4〜6組が巡回している。

要望や困り事を聞くほか、被災者の血圧や脈拍を測ったり、空き巣や災害に乗じた詐欺への注意を促したりしている。熱中症で体調を崩さないように十分な水分補給も呼び掛ける。

訪問を受けた可部町桐原の無職系川信さん(69)は「自宅の土砂撤去に追われて地域活動ができず、近所の人に申し訳ない」。妻の富美枝さん(64)も「雨が降ると土石流がまた起きるのではと不安になる」と打ち明けた。

区社会福祉協議会の災害ボランティアセンターが看護師たちを派遣している。「気持ち安定しない」「夜が怖く、安心して眠れない」という相談が多いという。区社協の三村誠司事務局長は「被災者家庭の土砂撤去だけでなく、被災者の心のケアも必要と感じる。丁寧にニーズを把握し、継続的なサポートにつなげたい」と話している。

平成26年9月13日
中国新聞



広島土砂災害で、「広島市長ら5人が訪問した。松井市長は「多くを市復興連携本部」と改称し、被災者の生活再建のニーズの把握に力を入れる。ボランティアの受け入れは、日曜に限定し、県内の個人・団体に絞る」と話した。

安佐南、安佐北両区の社会福祉協議会の会

松井市長(右端)にボランティア活動の状況を報告する寺尾会長(左から2人目)たち

長たち5人が訪問した。松井市長は「多くを市復興連携本部」と改称し、被災者の生活再建のニーズの把握に力を入れる。ボランティアの受け入れは、日曜に限定し、県内の個人・団体に絞る」と話した。

市社会福祉協議会によると、これまでに全国から延べ約4万1千人がボランティアに参加した。1日に同本部

平成26年10月1日
中国新聞

あとかき

平成26年8月20日未明に発生した豪雨災害から1年7か月が経ちました。

私たちはこれまでに経験したことのない大きな災害に直面し、毎日が混乱状態の中で戸惑いながら、多くの仲間やこの災害で出会った方々と一緒に被災者支援活動を行ってきました。

発災直後から現在まで、県内外の皆様からいただいたたくさんのご支援や温かい応援の言葉に何度も何度も励まされました。日々状況が変わる中で途切れることのない問い合わせの電話に懸命に対応してくれた大学生、朝早く、駐車場からボランティアさんを誘導してくださった地域のみなさん、活動を終えて帰ってきたボランティアさんにお水を渡してくれた小学生、今でも毎日のように「何かできることないかねえ?」と顔を見せてくださる方など、被災地とともに災害ボランティアセンターを支えてくださった全ての方への感謝の気持ちとともに、復旧から復興までの動きや現在の取り組みについて報告させていただきたい、この災害で経験したことを記録に残すことで今後の災害対応に役立てることができれば…という思いでこの報告書を作成しました。

作成にあたって地域で支援活動を行なわれた方々や災害ボランティアセンターの運営に携わっていただいた方々から直接お話を伺う中で、初めて知ることが本当にたくさんありました。みなさんのお話に共通することは、必ず間をつなぐ“人”の存在があったことと、どんな状況でも「今、自分たちがすべきことは何なのか?」を判断し仲間やスタッフ同士が信頼して活動されていたことであり、人と人とのつながりがいかに大切なことであるかを改めて感じさせていただく機会となりました。

この報告書は広島市社会福祉協議会としての視点で編集しています。本来であればもっと多くの皆様からのお話やエピソードを記録に残しておきたいところですが、紙面の都合上、掲載することが叶わなかったことをご了承ください。

最後に、インタビューにご協力いただいた方々をはじめ、多くの写真をご提供いただいた関係機関・団体の方々、作成にご理解とご協力をいただいた方々に対し、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

広島市社会福祉協議会 ボランティア情報センター

平成26年8月20日の豪雨災害 広島市・区社会福祉協議会活動報告書

発行 平成28年3月

部数 2,000部

発行者 社会福祉法人 広島市社会福祉協議会

〒730-0052 広島市中区千田町一丁目9番43号 広島市社会福祉センター内

TEL.082-243-0051 FAX.082-243-0032

写真提供等協力 広島修道大学・ひろしまNPOセンター・災害NGO結・ボランティアの方々・広島市

参考資料 高島市豪雨災害の記録・阿蘇07.12九州北部豪雨災害記録

